

## 第2回第10採択地区教科用図書採択協議会 議事録（午後）

開催年月日	令和元年7月16日（火）		
開催場所	三芳町役場3階301会議室		
開催時間	12:40 ～ 16:25		
教育委員会	出席者		
富士見市	山口 武士 教育長	小野寺 巧 教育長職務代理者	
	簗輪 菊雄 教育委員	五十嵐洋太 教育委員	渡部利枝子 教育委員
ふじみ野市	朝倉 孝 教育長	富田信太郎 教育長職務代理者	
	塩野 好一 教育委員	丸山 昇 教育委員	茂井万里絵 教育委員
三芳町	古川 慶子 教育長	池上 善一 教育長職務代理者	
	長野真寿美 教育委員	鈴木 信之 教育委員	細谷 雄司 教育委員
		事務局	
		学校教育課長	武田 圭介
		指導主事	鳥山 裕貴
1 説明	<p>（議長） これより、午後の部を開始します。 午後は小学校各教科の研究結果報告を行いますが、ここで1点お諮りします。理科と生活科において一般社団法人信州教育出版社の教科書見本本が提供されていないため、第10採択地区での調査研究は行われておりません。しかしながら、教科書目録には掲載されておりますことから選定の対象に含むこととしたいと思っておりますが皆様それでよろしいでしょうか。</p> <p>（委員） はい。</p>		
2 報告及び質疑	<p>（議長） それでは報告にうつります。小学校国語の専門員長を入室させてください。</p> <p>（専門員長） 失礼します。</p> <p>（議長） では、お願いします。</p> <p>（専門員長） それではみなさん、こんにちは。</p>		

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、国語科専門委員長を務めます、富士見市立針ヶ谷小学校、校長の辻口 幸恵 でございます。これより、国語科調査研究の結果を説明いたします。国語科では、4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点として、「言葉に注目した言語活動」「情報の取扱い方に関する事項」「その他」の3点を設定いたしましたが、その結果につきましては、お手元にある報告書のとおりでございます。それでは、観点に沿って、ご報告いたします。

「東京書籍」について、ご説明いたします。「言語活動」についてですが、指導事項を意識して、学習が進められるよう「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各単元に、身に付けたい「言葉の力」を設定し、単元を通して明示されています。そして、単元末の「ふり返る」では、「言葉の力」を他教科等の学習や実生活に活用することを促す「生かそう」を設けています。また、巻末にある「言葉の広場」では、思考に関わる言葉、原因と結果に関わる表現、つなぐ言葉や関係を表す言葉など、言葉の量も豊富で、充実しており、参考になる資料となっています。「情報の取扱い方」についてですが、情報という特別な単元は設けられていませんが、「言葉の力」を支え、深い学びの基盤となる知識・技能として、「語彙」や「情報の扱い方」を重視して、学習指導要領に示された事項を中心に、着実に身に付けられるようになっていきます。特に、6年生のSNSの投稿の例示は、児童の実態に即した内容であり、児童が取り組みやすいものとなっています。「その他」につきましては、青やオレンジ色の文字やマーク、インデックスもつけられ、見やすく、使いやすい教科書となっています。また、目次ページの最後にあるQRコードを使用して、インターネット上のデジタルコンテンツにアクセスすることはできます。しかしながら、その内容は、漢字のプリントやワークシート等の教材が中心となっています。

「学校図書」について、ご説明いたします。「言語活動」についてですが、確かな言語能力を育成するために、「書くこと」では、つきたい力に合わせた言語活動が具体的に例示されていたり、「話すこと・聞くこと」では、言語活動の際のポイントが、イラストや吹き出しで示されたりして、言語活動を行うためのヒントがまとめられています。また、巻末に、授業で使う言葉などが掲載され、内容も多様で、授業で取り扱いやすいものとなっています。また、中学年では、立体的な点字のページがあり、実際に点字を体験できるように工夫されています。「情報の取扱い方」についてですが、情報という特別な単元は設けられていませんが、情報の関連付けや情報の整理の仕方についての教材を配置し、演習を通して理解し、他教科でも活用できるように工夫されています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動の中に、図化・表化・イメージマップなど様々な思考ツールとしての表し方を取り入れ、情報を視覚的にとらえて整理する力をはぐくめるよう配慮されています。「その他」についてですが、3年生以上の上巻の冒頭に、折り込みのページで、1年間の学習の内容や、つきたい力が一覧で示されています。教科書のページにQRコードがあり、インターネット上の教材

にアクセスできますが、ワークシートや作者の年表が中心となっています。また、全学年とも上・下分冊で、児童の持ち運びの際の負担を少なくする配慮をしています。

「教育出版」について、ご説明いたします。「言語活動」についてですが、言葉による「見方・考え方」をはぐくみ、多様な言語活動を通して、言葉の力としての「資質・能力」を身に付けていく構成となっています。てびきの「たしかめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」の「4ステップ構造」で、具体的な授業がイメージしやすく、何をしたらよいか分かりやすくなっています。具体的には、3年生下巻の「モチモチの木」のてびきでは、「行動や様子を表す語句」を読み取るポイントを提示し、その言葉をどんな場面でどう使うのかといった実生活に生きる語彙指導について、示されています。「情報の取扱い方」についてですが、情報という特別な単元は設けられていませんが、子どもたちが、必要な情報を取り出し、情報どうしの関係を整理し、情報の扱い方を身に付けるための教材が設けられています。具体的には、低学年では、「順序を表す文型や共通を表す文型」を、中学年では、「全体と中心」を読み取るポイントを、高学年では「原因と結果」の述べ方を学習できるようになっています。

「その他」についてですが、教科書を上・下分冊にすることにより、教科書の軽量化を図るとともに、付録のページを充実させています。6年生の下巻では、50ページ以上の付録のページがあり、言葉の木や言葉のまとめ、学ぶときに使う言葉などの言葉に関する内容や、本の紹介などがたくさん掲載されています。大きな写真やイラストも、子どもたちの興味・関心を引きまします。「まなびリンク」マークのあるところでは、QRコードからインターネット上のデジタルコンテンツにアクセスできるようになっています。しかしながら、教科書の拡大画像であったり、他のウェブサイトへのリンクであったりということがあります。

「光村図書」について、ご説明いたします。「言語活動」では、子どもたちの発達段階、学習の習熟度、目的、必然性を考慮して、多様な言語活動が系統的に位置づけられています。言葉の力を伸ばすためには、学びを積み重ねることが大切であると考えられ、「たしかめよう」で既習事項を確認し、「たいせつ」と新設された「いかそう」で、次につなげる構成になっています。「いかそう」では、他教科や日常生活の場面で、国語科の学習の「何が」「どのように」生きるのか、ヒントを提示しています。また、身に付けた力を次の学習で生かせる単元や教材の配列を工夫しています。2年生以上の教科書の巻末に「言葉の宝箱」を設け、感想や評価を述べる語彙を集めた「考えや気持ちを伝える言葉」と、国語で学習する用語をまとめた「学習に用いる言葉」が掲載され、量的な語彙力と質的な語彙力を高められるようになっています。「情報の取扱い方」についてですが、2年生以上で、情報の扱いに関する教材「情報」を新設し、系統的に学習できるようになっています。「情報」教材は、活用場面を意識して、「考えるときに使おう」「関係をとらえよう」「集めるときに使おう」「調べるときに使おう」の4つの系列に整理され、学習が進められるように構成されています。「その他」についてですが、青色のインデックスやマークがつけられ、見やすく、使いやすい工夫がされています。ページの下にQRコードが付いていますが、QRコードを使用して、インターネット上のデジタルコンテンツにアクセスするこ

とができます。子どもたちが、興味・関心をもち、深い学びにつなげられる音声や動画が収められ、家庭での学習においても活用することができるようになっていきます。

説明は、以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明につきまして、ご質問をお願いします。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

すいません。一番最初の報告なので確認をしておきたいんですが、今までの調査の資料に、○・△という印はなかったように思うのですが、初めてですよね。○・△の意味をまず、お願いしたいのですけれど。

(専門員長)

はい、ではお答えします。

(議長)

お願いします。

(専門員長)

○につきましては、その教科書が優れていると思われる点、それから△については、だめだと言うことではなくて、もう少し改善されるとよいだろうと言う点になっております。

(委員)

はい、ありがとうございました。はいその上で、教科書会社によって、上下で分冊になっているのと、1冊になっているものがあって、分冊になっていると○がついてますね。ということは、学校としては、分冊になっていた方が軽いし、持ち運びが便利だなあと考えているというふうに、理解してよろしいのでしょうか。

(専門員長)

分冊か1冊かにつきましては、全部の学年が1冊、全部の学年が分冊というわけではなくて、1冊になっている教科書会社さんにつきましては、高学年、5年生と6年生が1冊、1年生から4年生までは分冊という形をとっています。で、見ていただいて分かりますように、分冊に○がついているところもありますし、一番最初、光村図書さん一番最後、学年1冊構成で○をつけてあるところもあります。小中のつながりを考えていく点では、中学校では1冊になりますので、そういったところで、高学年が1冊というのは利点でもあるというふうに考えています。

(議長)

はい、どうぞ

(委員)

はい、上下分冊になった場合、子どもたちに配布されるのは、上下2冊一気に4月に配布されるんですか、それとも上は前期、下は例えば9月とか分かれて配布されるんですか。

(専門員長)

上下1冊一緒に配布されることはなく、分かれての配布となります。

(委員)

はい、ありがとうございました。

(議長)

事務局の方からありますか…

(事務局)

事務局の方からお答えさせていただきます。分冊になっている場合、その教科によっても違いはありますが、同じ4月当初にまとめて配布ということはございません。主に下巻に関しましては、9月の配布になる場合が多いかと思えます。以上です。

(議長)

ほかに質問は

(委員)

各者QRコードを載せているようですけども、QRコードを、どのようにその資料に生かしていくのか。お願いします。

(専門員長)

はい。各者が載せてあるQRコードの中身にもよるのですが、ワークシート等のQRコードが載っているもの、あるいは教科書の拡大のものになっているものについては、授業の中で必要に応じて、使っていくことは可能かと思えます。ただ、ワークシートについては、それをそのまま活用することはできませんので、いったん何かに落として、プリントアウトすると言うような必要性が出てくるかと思えます。

それから音声・動画等につきましては、必要によって例えば、今までデジタル教科書等で載せられているような音声も、教科書でも再現できるようになっておりますので、そのまますぐ、授業で活用することができるかと、そういうふうに考えております。

(委員)

ありがとうございました。

(委員)

ちょっと、今のもう一つ前の質問よろしいですか？

(議長)

どうぞ。

(委員)

分冊で、その上下が分冊で、それぞれ前期と後期で分けられた場合に、転出入の事務の時に、例えば後期に転入してきたと、でいわゆる後期分の教科書を貰うけれども、前期分の教科書ってというのはどうなるのですか。

(事務局)

はい。その点についてまた詳しく、こちらでも確認をさせていただきたいと思えます。

(専門員長)

基本、教科書給与証明書が転出の際、お子さんと一緒に渡されると思えます。それで給与されていないということであれば、教科書会社が変わって違う場所に転出した場合、また前の教科書を使用するということであれば、給与されるということは可能…

(委員)

要は前期分を給与されるってことで間違いないの？

(事務局)

はい。教科書会社が変わった場合には。

(委員)

もちろん。

(議長)

細かく言うと、転出・転入の時期があると限られていたようにと思えます。これは私の記憶ですけれども、あの、3月に転入した者については、その年度の分はもう支給されないという期限はあったように思えますけど、原則は今説明があったとおりにあります。

(議長)

他の質問いかがでしょうか？よろしいでしょうか。

(議長)

はい、それでは質問がなければ。

(委員)

はい。すみません。

(議長)  
ああ、どうぞ。

(委員)  
あの、4つの教科書会社の、その調査資料が、物理的な分量が若干違うのかと思うのですが、これは何か。

(専門員長)  
見て、教科書をこちらで調査している際に、各調査員からあげられたものをまとめた結果がこの形だというふうに判断していただきたいと思います。

(委員)  
ありがとうございました。

(議長)  
他はよろしいですか？

(議長)  
はい、それでは以上で国語の質疑を終了いたします。専門員長は、ご苦労様でした。

(専門員長)  
ありがとうございました。失礼いたします。

(議長)  
それでは、小学校書写の専門員長を入室させてください。

(専門員長)  
失礼します。

(議長)  
小学校書写について説明をお願いします。

(専門員長)  
はい。失礼いたします。皆様こんにちは。

(委員)  
こんにちは。

(専門員長)  
私は、国語科書写専門員長を務めます、三芳町立三芳小学校、校長の蘇武伸吾でございます。これより、国語科書写調査研究の結果を説明いたします。書写では、5者について、調査研究を行いました。調査の観点といたしまして、「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」、「主体的な学びを支える資料・構成について」、「その他」の3つを設定し、その結果に

つきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」、ご説明いたします。書く姿勢の合言葉は「ぴん・ぺた・とん」と簡潔です。

1・2年生では、「書写体操」から「書く姿勢」へと一連の動作で考えられています。この動作は歌付きで、児童が楽しく書く姿勢づくりを意識できるような工夫が見られます。左利きの児童に対応し、鉛筆の持ち方、毛筆学習の準備の仕方が写真で掲載されていて、多様な児童への配慮が見られます。次に「主体的な学びを支える資料・構成について」、主なものをご説明いたします。1年生のひらがなの学習での指なぞり線は、児童の指の太さに合わせてあり、書き順で色を変え、折れ・曲がりなどを分かりやすく示しています。どの学年でも「書写のかぎ」で書くときのポイントを示しています。3年生以上では、「書写のかぎ」のインデックスをつけ、確認したい内容について振り返ることができるようにしてあります。最後に「その他」についてご説明いたします。教科書のサイズはB5よりやや大きめです。1年生は裏表紙に、2年生以上は、巻頭にQRコードが付いていて、自宅で学習を振り返ることができるようになっています。1・2年生の巻末には、水書用紙が付いています。

次に「学校図書」についてご説明いたします。はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」ご説明いたします。1・2年生の教科書では、鉛筆の持ち方について順に写真で大きく載せてあり、「書写の合い言葉」では、具体的な体の置き方がわかるような言葉を使っています。次に「主体的な学びを支える資料・構成について」主なものをご説明いたします。指なぞりや水書きシートはなく、えんぴつで直接書き込む方法を取り、折れ、曲がりなどは解説で示しています。3年生以上の毛筆の学習では、2文字以上になると教科書のお手本が原寸大になっており、濃淡をつけた色付きで穂先の通り道が分かりやすくなっています。また、新しい筆使いの学習では、筆の画像と細かな解説があります。字形等の学習では細かな解説が少なく簡潔に示しています。最後に「その他」についてご説明いたします。教材一つ一つにQRコードが付いており、動画等の補助資料につながるようにしています。また、一度に検索できるよう、整理番号も付いています。漫画風のキャラクターの助言、学習の最後に硬筆で振り返る場面の設定、シールの活用、学習の進め方の流れなどを示し、主体的に学習に取り組む工夫がされています。3年生以上では、「はがき・原稿用紙の書き方・手紙の書き方」が、4年生以上だと「都道府県」のワークが毎回付属していて、他教科との関連を図っています。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」ご説明いたします。書く姿勢の合言葉は、「こしぴん・足ぺた・ぐうひとつ」と簡潔です。鉛筆の持ち方でも、合言葉が作られていて箸の持ち方とも比較しながら丁寧に説明しています。どの学年でも教科書の裏表紙の名前を書く欄の上に「鉛筆の持ち方」のイラストが載っています。鉛筆の持ち方を振り返る工夫が見られます。次に「主体的な学びを支える資料・構成について」主なものをご説明いたします。1・2年生では、文字を指でなぞる練習を取り入れ、イラストや言葉で、折れ・曲がりなどを分かりやすく示しています。毛筆の筆遣いの学習では、教材ご



とに筆の動きがわかる写真と細かな解説が付いています。最後に「その他」についてご説明いたします。「点画」について、1・2年生では水書用筆の「書写体操」の中で3年生以上は、「点画の種類」が見開きで掲載されていて、学習内容の系統性を重視しています。裏表紙にQRコードが添付され、お手本となる書き方を動画で確認することができます。1年生にはコンパクトな水書用紙が付いています。教科書から切り離さないで使うことができ、見開きで「水書用紙の使い方」を確認しながら学習することができます。

次に「光村図書」についてご説明いたします。はじめに、「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」ご説明いたします。1・2年生の教科書では、正しい姿勢の維持のための「書写体操」や、鉛筆の持ち方について詳しい説明や手の使い方の写真も掲載されています。3年生以上では、書くときのひじの位置や軸のかたむきなど、鉛筆と毛筆を比較する写真が掲載されています。次に、「主体的な学びを支える資料・構成について」ご説明いたします。1年生の指なぞりは、線が児童の指の大きさに合わせてあり、ポイントとなるところで色を変えていて、折れ・曲がりなどを分かりやすく示しています。毛筆の学習では、筆使いが濃淡をつけた色付きで、穂先の通り道が分かりやすく、新しい筆使いの学習では、筆の画像やイラストで示し、簡潔な解説があります。字形等の学習では細かな解説が少なく簡潔に示しています。最後に、「その他」についてご説明いたします。教材ごとにQRコードが添付されていて、動画等の補助資料につながるようにしています。キャラクターが助言をしたり、「たしかめようシール」を用いたりして、学びが整理できるように工夫されています。水書きシートはB5より小さく、1年生のみで付属され、巻末でまとめて取り上げられています。ポイントとなる言葉を朱書きにして合言葉を作ったり、毛筆での解説は情報を絞ったり、文字より視覚的にポイントをつかむ工夫がされています。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。はじめに、「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」ご説明いたします。書く姿勢について合言葉が考えられ、ポイントになることを掲載しています。2年生の筆記用具の持ち方で鉛筆とフェルトペンの持ち方を、3年生以上になると、様々な筆記用具の持ち方について写真で比較して見られるように掲載されています。次に、「主体的な学びを支える資料・構成について」ご説明いたします。1年生の指なぞりでは、書き順で色を変えており、3年生以上の毛筆では、筆使いが濃淡をつけた色つきで、穂先の通り道が分かりやすく示されています。新しい筆使いの学習では、細かな解説があり、字形等の学習では、細かな解説が少なく簡潔に示されています。また、毛筆学習の準備の中に赤鉛筆が準備され、ためし書きと教科書の手本を比べて、自分の課題を見つけ、書き込む活動が設定されています。最後に、「その他」についてご説明いたします。QRコードではなく、ホームページのURLがあり、そこから動画等の補助資料につながるようにしています。1・2年生の巻末にB5大の水書用紙が付属されています。5・6年生では、自分の文字と向き合う学習が設定されていて、自分の文字の課題を考える学習があります。以上で書写の説明を終わりにいたします。

(議長)

はい、ありがとうございました。

	<p>ただ今の説明につきまして、ご質問等を受けたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>(議長) はい。どうぞ。</p> <p>(委員) はい。東京書籍の説文に、左利き児童に対しての対応についての説明がありましたけれども、他の教科書ではどうなのでしょう。</p> <p>(専門員長) はい。他の教科書会社さんに対してはですね、左利きに限らずですね、鉛筆の持ち方等については記されています。東京書籍さんの部分は、写真が載っており、分かりやすく示されていました。</p> <p>(議長) 他にいかがでしょう。</p> <p>(議長) はい、お願いします。</p> <p>(委員) 水書きシートについて、△印が付いているのがかなりあるのですが、B5で小さかったりとか、あとないってことで△印だということ、学校側としてはそういったものは、あった方がよいとお考えですか？</p> <p>(専門員長) 新しい学習指導要領で、筆を使って学習することで、点・角でしたり文字の書き方ということが、子どもたちが習得しやすくなると言ったような記載がございます。ですので水書用紙は水書版を使ったりですとか、そういった活動は、この後取り組むことになると思いますが、ついてる、ついてないということで、学校でどうするということは、今後、採用された時、考えることになるかなと思います。</p> <p>(議長) 他に、はい、どうぞ。</p> <p>(委員) 今との関連ですけど、ついてないという表記をしているところと、何も入っていない、ついていないという表記がないところなんですけども、たまたま日本文教は3年生以上はついてない感じがあるんですが、その辺の差異とか言うのは文章に記載されるとちょっと、後は全部ついてるのかなとちょっと錯覚をしたんですけど、実際に見ていないとわからないと判断をされたのでしょうか。</p>
--	---

(専門員長)

水書用紙については、東京書籍さんについては、1年生についています。学校図書さんについても、学校図書さんは、水書用紙はついておりません。教育出版については、水書用紙は1年生に付属されていて、2年生にはついてございません。光村図書さんについては、巻末に1年生ですね、ついていてございます。日本文教出版さんについては、1年生の巻末についてございます。

(議長)

他にいかがでしょうか。

(議長)

よろしいですか？

(委員)

はい、あの微妙な違いなんですけれども。大きさの。実際にどうなんでしょうか。ぼくたちこれ、持ち運びだとか、そんな時には、どちらの方が便利だとか特にはないですか？

(専門員長)

そうですね、あの、サイズについては大きさによって、そこに示されている資料の大きさに直接影響するところがあります。持ち運びという視点だけで考えますと、サイズはもちろんコンパクトの方が、というふうにはなるとは思うのですが、資料が実際の半紙の大きさに合わせてあると多少大きくなったとか、というところで双方によいところがあるのかなと思っております。

(議長)

他にはいかがですか？

(議長)

よろしいですか？では質疑がなければ質疑を終了といたします。ご説明ありがとうございました。お疲れ様でした。

(専門員長)

どうもありがとうございました。

(議長)

それでは続きまして、小学校社会科の報告です。専門員長を入室させていただきます。

(専門員長)

失礼いたします。

(議長)

では説明をお願いいたします。

(専門員長)

ではどうぞよろしくをお願いいたします。皆様こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、社会科専門員長を務めます、毛呂山町立毛呂山中学校、校長の小堺広司でございます。これより、社会科調査研究の結果を説明いたします。社会科では3者について、地図帳では2者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、観点1「課題を『つかむ』『調べる』『まとめる』活動が分かりやすく、自分の言葉でまとめる流れができているか?」、観点2「資料を読み取る力を身に付けさせる上で、資料の種類、資料提示の表現やその説明の文章は適切か?」、観点3「学習指導要領に定められた学習内容に対して、情報量が適切であり、内容の精選がされているか?」の3つを設定し、地図帳では、「地形図、分布図、地勢図として活用する場合、色合い・グラフ・国名表記など、適切に表現されているか?」の1つの観点を設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに「観点1」についてご説明いたします。学習のすすめ方は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」で分類されていて、毎回の小単元に、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」のいずれかが課題と共に必ず明記され、どの単元においても同一の方法で色分けされており、区別しやすく表現されています。「調べる」小単元では、ドラえもんが「見方・考え方」のヒントを提示しており、教科目標に示された「社会的な見方・考え方」の一助になっています。「いかす」は次の学習や誰かに伝えたりする学習段階としており、地図の作成、提案文、標語、ポスター、クラスでの発表など様々な方法が示されています。その一方で、「いかす方法」の種類が多いため、児童にとってはやや難しく感じる可能性もあります。次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。地図学習では、地図と写真が効果的に関連して配置されており、特に、浄水処理・ゴミ処理の仕組みが分かりやすくまとめられています。歴史では、当時の様子を描いた絵などが多く、絵をもとに授業がしやすい表現されています。地形や気候の写真が多い一方で、耕地面積や気温等のデータが少ないです。最後に「観点3」についてご説明いたします。特に、自動車工場の組み立ての流れなど図や写真などは同じ大きさで示され、分かりやすい流れになっています。その一方で、発展的な学習の「ひろげる」では、情報との関わりの中で三つの産業を扱っており、内容量の精選が必要となります。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。はじめに「観点1」についてご説明いたします。学習のすすめ方は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」で分類され、毎回の小単元にある「問い」から、次時につながる「次につなげよう」があり、学習が展開しやすくなっています。一

方、「つかむ」「調べる」について、毎回明記されていません。「まとめる」方法として、表にして比べる、話し合う、関係図を作る、ノートにまとめるが扱われておりますが、もう少し種類の工夫があるとなおよいと考えられます。色分けが、大单元ごとだけの区別になっていて、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」での色分けをした方が、学習過程が分かりやすくなると考えます。次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。農業・製造業・小売業・消防・警察の单元では、年間と1日の仕事の流れが分かりやすく表現されています。中でも、リサイクルの仕組みについて、分かりやすくまとめられております。歴史では、想像図をたくさん使っていて、当時の様子を分かりやすくまとめています。一方、3年の地図学習では、町の様子の写真が多く、地図との関連性を指導する際、工夫が必要になります。最後に「観点3」についてご説明いたします。内容に関する読み物や文献資料が多く載せられております。「まとめる」では、児童の作品や言葉が多数使用されており、分かりやすい内容を示しています。その一方で、関係者の話が長く載せられ、臨場感ある話が記述されておりますが、難しい言葉や内容があり、記述内容の精選が必要となります。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。はじめに「観点1」についてご説明いたします。学習のすすめ方は、「見つける」「調べる」「まとめる」「つたえる」で分類していて、「見つける」のページに示された学習計画が分かりやすく、端的にまとめられていて、児童が理解しやすいものとなっております。「つたえる」方法には、話し合う、キャッチコピーを作る、他学年に発表する、カードにまとめるなど様々な方法が示されております。一方で、小单元名や課題とともに、「見つける」「調べる」「まとめる」「つたえる」が明記されていると学習の流れが分かりやすくなってよいと思います。次に、「観点2」について、主なものをご説明いたします。地形や気候については、多角的なデータが多く、円グラフなどが多く、客観的データから、当時の状況に迫る学習となります。一方、3年地図学習では、埋め立て地についてなど、内容が深掘りされすぎているように感じます。最後に「観点3」についてご説明いたします。絵や図、写真が多く分かりやすい工夫がされています。一方、食料生産に関する選択では、果物、野菜、畜産を採りあげていますが、内容量がそれぞれ違い、畜産の内容量が多すぎる傾向にあり、精選が必要と考えます。教科書の説明は以上でございます。

次に、地図帳についての調査研究をご報告申し上げます。

まず、「東京書籍」について、観点に基づき、主なものをご説明いたします。UD（ユニバーサルデザイン）書体を採用して誰にでも見やすく、基本の色使いは国内も世界地図も等高段彩表現のみを採用しているため、土地の高低を理解しやすく立体的にみることができ工夫がされています。また、山や海底の描写が立体的に表現されており、高さや深さを理解しやすく表現されています都道府県の統計につきまして、見開き1ページに大きく掲載されていて見やすくなっております。

「学習内容とのつながりについて」は、ページ番号順にめくっていくと対象となる地域が北上していくシンプルな構造のため、児童が対象地域を見つけやすく、ページ数も少なく、指導するページ選定が素早くできる工夫がさ

れております。日本史の中で、世界と関わっている時代をピックアップして、当時の世界地図を掲載しているため、第6学年の社会で活用することができます。一方で、第3学年で指導する地図帳の使い方や地図の在り方についての説明を、より大きく詳しく掲載することや、学習内容に関連した特設枠や特設ページについて、工夫が必要であると考えます。「その他」として、インデックスが表紙からは見えずに調べにくいこと、ページ数が102ページと少ないのですが、382gと重いことが挙げられます。

次に、「帝国書院」について、観点に基づき、主なものをご説明いたします。UD書体を採用して誰にでも見やすく、全ページにおいて等高段彩表現だけでなく土地利用表現の併用していることにより、土地利用の観点から学習する地域を学ぶことができます。特に、等高段彩表現による色分けのコントラストがはっきりしており、児童にとって見やすい工夫がされています。世界地図では等高段彩表現を採用しているページと各国色別に表現したページが掲載されているため、各国の形や位置が分かりやすくなっております。また、資料図で掲載されているグラフが多く、資料の読取りにつながりやすくなっております。一方で、等高段彩表現と土地利用表現の併用により、二元的な見方が必要となるため、正しく理解させる指導が必要となります。

「学習内容とのつながりについて」は、社会科の指導が始まる第3学年の導入において、地図の役割や方位、地図記号、使い方等の説明が詳しく、見やすく設定されており、理解しやすい工夫がしてあります。また、「広く見わたす地図」と「都道府県を見る地図」を地方ごとに掲載することで、全体としての位置関係と詳細な県の情報が結びつきやすい工夫がされていたり、学習する地域の拡大地図や必要な情報のみ選定して載せた地図等を多数掲載しており、学習内容に関係づけやすい工夫がされております。各地方を扱うページ数も多く、細やかな指導ができる。資料図では、地形や気候等の項目ごとに焦点化してページが分けられており、見やすく情報が整理されていたり、防災・減災に関わる資料を見開き2ページにわたって掲載しております。また、その中で「つかむ」「調べる」「まとめる」の流れで学習ができるように効果的に資料が掲載されております。一方で、「広く見わたす地図」と「都道府県を見る地図」が分かれているため、全体を見わたす活動と対象の都道府県を見る活動の間にタイムラグが生じるため、工夫が必要となります。「その他」といたしましては、ページ数が120ページと多いが344gと軽いことが挙げられます。

地図帳の説明は以上でございます。以上です。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いします。

(委員)

はい。東京書籍さんの6年生は、政治と歴史で分割になっていると思うんですが、メリット・デメリットを教えてくださいたいのですが。

(専門員長)

メリットでございますが、近年のA4版の時代にランドセルが非常に重た

いという課題に対して、分冊されているということから、分かれて整理することやもつことができる。デメリットはあえて言うならば、歴史との関連において政治的分野も振り返りたい時に、もしその日にもってきていないとなると、ふれるっていうところに振り返りが、やや難しくなるのかなあと思っています。以上です。

(委員)

ちょっと地図という観点とは違うかもしれませんが、領土・領海・領空の記載はありますでしょうか。

(専門員長)

はい。こちらについては両者ともしっかりと記載されております。

(議長)

他にはいかがですか？

(議長)

ございませんか？はい、ないようでしたら以上で質疑を終了といたします。ご説明ありがとうございました。

(専門員長)

はい、大変ありがとうございました。

(議長)

はい、次に小学校算数の専門委員長を入室させてください。

(専門員長)

失礼します。

(議長)

はい、説明をお願いします。

(専門員長)

はい。みなさん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、算数科専門委員長を務めます、ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校、校長の榎本崇でございます。これより、算数科調査研究の結果を説明いたします。算数科では6者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「問題解決的な学習の構成について」、「数学的活動の事例について」、「つまずきへの取組について」、「その他」の4つを設定し、その結果についてはお手元の報告書の通りです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに、問題解決的な学習の構成についてご説明いたします。「学びのとびら」や「今日の深い学び」のページには、「問題をつかもう」「自分の考えをかき表そう」「友達と学ぼう」「振り返ってまとめよう」「使ってみよう」などの見出しがあり、問題解決的な授業を構成するための参考となります。数学的な思考力・表現力を高められるように、考え方の例を複数提示しています。また、吹き出しを用いた「つぶやき」で解決のヒントやまとめの方向性がしめされています。次に、数学的活動の事例について説明いたします。「今日の深い学び」のページで数学的活動を分かりやすく可視化しています。4年わり算の筆算では、具体物（色紙）やテープ図（数直線）などを関連づけて考えさせる構成となっており、高学年へ向けた比例の考え方を大切にしています。次に、つまずきへの取組について説明いたします。図やグラフなどに対応したデジタルコンテンツが用意され、マークで示されています。ページ下部の吹き出しでは、数学的な見方・考え方についてのヒントが豊富に用意されています。最後に、その他について説明いたします。1年①のみA4判になっており、算数ブロックを直接教科書において学習することができます。

続いて、「大日本図書」についてご説明いたします。はじめに、問題解決的な学習の構成について説明いたします。単元の導入等のページには、「問題をつかもう」「自分で考えよう」「学び合おう」「まとめよう」「使ってみよう」「ふり返ろう」などの見出しがあり、問題解決的な授業を構成しやすくなっています。写真による板書例のページがあり、授業のイメージがつきやすいです。わり算の単元では、わり算ありきの立式を提示しています。□を使ったかけ算の式からの変形、これを逆算の関係とありますが、その考え方を扱うには、授業者の工夫が必要です。次に、数学的活動の事例について説明いたします。「算数たまたまばこ」というページでは、日常生活と算数の関わりを取り上げ、算数の土台に乗せて考える工夫がされています。4年わり算では、10や100のまとまりを意識させやすいように、100、10、1のカードを使って考え方を整理しやすくしています。最後に、つまずきへの取組について説明いたします。全学年で既習のふりかえりがしやすいように、学年1冊本となっています。どこのページを振り返ればよいかわかるようにリンクマークも付されています。問題番号が色分けされており、習熟度に応じた学習ができるようになっています。

続いて、「学校図書」についてご説明いたします。はじめに問題解決的な学習の構成についてです。「発見」「解決したいな」「考えたいな」「説明したいな」「くらべたいな」「表したいな」「知りたいな」「確かめたいな」「やってみたいな」などの児童の心情に沿った見出しが付されており、児童自らが問題解決的な学びを進めやすくなっています。特設ページでは、対話的、協働的な学習が行えるような発展的な問題を扱っています。割合の学習では、4マス関係表を用いた立式が強調されているため、子どもたちが機械的な処理の習得だけにとどまらないよう、授業を工夫する必要があります。次に、数学的活動の事例について説明いたします。4年わり算の筆算の導入において、色紙の束を分ける際に算数ブロックでの活動を提示していますが、筆算の考え方へつなげにくい展開となっているため、授業では工夫が



必要です。次に、つまずきへの取組について説明いたします。誤答例を扱う設問があり、正しい考え方を子どもたちが見つける活動が仕込まれています。4年わり算の筆算では、除数と被除数の数値を丸めて考えさせるために、注目する位以外の場所を鉛筆で隠す方法が提示されています。除数が2桁の場合、過大商となり仮商修正の回数が多くなるため、指導の際には工夫が必要です。最後に、その他について説明いたします。プログラミング的思考を養うページでQRコードが掲載され、デジタルコンテンツにアクセスすることができます。

続いて、「教育出版」についてご説明いたします。はじめに、問題解決的な学習の構成について説明いたします。「～しましょう」という問いの連続で授業を進めるスタイルになっています。「同じように」「だから」「いつも」など、数学的な考え方を引き出す言葉を整理して学び合いに生かせるようになっています。また、「だったら!？」のマークを用いて、子どもたちが発展的に考える場面を促せる構成になっています。解決方法の事例は概ね2つで構成されており、比較はしやすいですが、深い学びを実現させるためには、授業者の工夫が必要です。次に、数学的活動の事例について説明いたします。コラム「算数のミカタ」で、各領域を貫く数学的な見方・考え方を取り上げています。4年わり算の筆算では、100、10、1の束やサクランボ図、わり算のきまりを提示し、関連させながら筆算の仕組みを考えやすくしています。最後に、つまずきへの取組について説明いたします。脚注に「よくあるまちがい」を設け、誤答例を示すことにより、正しい理解が得られるよう工夫がされています。つまずきが予想される問題には、「考えるヒント」を示しポイントを意識させています。

続いて、「啓林館」についてご説明いたします。

はじめに、問題解決的な学習の構成について説明いたします。

「めあて」の言葉がマークとともに明示されており、児童が何を学ぶのか（考えるのか）が明確になっています。子どもの吹き出し等による気付きやつぶやきが多く、問題解決の道筋が分かりやすくなっています。解答例が少ないため、授業者の力量が問われると思います。計算の仕方の学習では機械的な操作（アルゴリズム）の要素が強く、多様な考えのよさを共有したり感得したりするためには、授業者の工夫が必要です。次に、数学的活動の事例について説明いたします。計算の仕方を考えさせる場面では、計算のきまりやたしかめ算を意識させています。次に、つまずきへの取組について説明いたします。つまずきに対応した復習・学年の総復習のページを設け、つまずきの多い学習内容には★マークを付して意識させています。最後に、その他について説明いたします。紙面の要所にQRコードが示されており、タブレットPC等で必要なデジタルコンテンツにアクセスできるようになっています。

最後に、「日本文教出版」についてご説明いたします。はじめに、問題解決的な学習の構成について説明いたします。単元の導入等のページには、「どんな問題かな」「考えよう」「学び合おう」「振り返ろう」などの見出しがあり、問題解決的な授業を構成するための参考となります。数学的な見方・考え方を支える表現方法（4マス関係表、数直線 等）が単元によってまちまちに出てくるため、一貫した考え方を身につけさせるためには授業者の力量が問われると思います。次に、数学的活動の事例について説明いたし

ます。「学び方ガイド」の裏面に「算数で使いたいことば・考え方」を掲載し、自分の考えを分かりやすく表現するためのポイントを示しています。4年わり算の筆算では、具体物を筆算に関連づけて考えさせる構成になっています。また、たしかめ算を大切に扱っています。次に、つまずきへの取組について説明いたします。単元末に「わかっているかな?」「まちがいやすい問題」のページを設定し、つまずきやすい内容を重点的に取り上げています。最後に、その他について説明いたします。上下巻ともノート例が示されています。

説明は、以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問等をお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はいどうぞ。

(委員)

授業を工夫する、ということが2つかな?あとは、授業者の工夫、それから3つ目が、授業者の力量が、という表現がありますけれども、その違いって、あったら教えてください。

(議長)

はい、お願いします。

(専門員長)

はい、明確に言葉の使い分けをしてはいませんでした。教科書を見ながら、授業を進めるってことは、算数の場合あまりないことかなというように思います。で、その教科書の内容を子どもたちと共にですね、どのように考えさせてつくっていくかということで、教師の方では発問の工夫ですとか、授業の流し方や、子どもの考え方をどのように生かすかっていうことについて、やはり授業者の方が工夫してやっていたかなければならないのかな、というところでそのような表現を使わせていただいております。

(委員)

あ、当然これ、あの特定教科書ではなくて、全ての教科書を授業する場合には。

(専門員長)

そういうことです。

(委員)

当然、授業あるいは授業者も、考えていく必要があるよっていうことですね。

(専門員長)

はい。

(議長)

他にどうですか。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

あの啓林館のところで「多様な考えのよさを共有」と、よさというのがあるんですけども、これは教科書はやっぱり多様な考え方が、基本的にこう提示されてるということが、必要だという考えでしょうか。よろしくお願ひします

(専門員長)

はい、算数科の場合、やはり子どもたちの多様な考え方を、授業の中でどのように共有化し、また統合したりしながら盛り上げていくというプロセスが、やはり思考力の面でもまず一番大事なことだと考えていますので、教科書に書いてある解答例というのが、あらかじめ予想される子どもの反応例とイコールだというふうに考えます。なので、いくつかの事例があった方がですね、やはり教員としても教材研究がしやすいですし、また、その考え方が出ない場合には教師の方から促すこともできるので、やはり、ある程度の解答例、また考え方が示されている教科書が好ましいというふうに考えます。

(議長)

他にないですか。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

はい、私自身もそうなんですけれども、大変恥ずかしい話で、小学校の算数から中学校の数学になる時に、非常に難しくてですね、そこでつまづいてしまったという経験があるんですが、中学校の数学への接続ということを考えた時に何か工夫のある教科書というのはありますでしょうか。

(専門員長)

はい。

(議長)  
お願いします。

(専門員長)  
はい。算数、数学は積み上げの教科書ですので、基本的にどの教科書でも中学校数学に向けた学習は可能だというふうに考えます。また、どの教科書も、6年生の巻末には、中学校での学習を意識した問題を掲載しています。例えばですが、学校図書につきましては、6年生の別冊というものがありまして、数学的な見方、考え方のまとめと、中学校への架け橋というページがあります。教科書のつくりとして、中学校っぽさというのが感じるのは啓林館かなというふうに専門員の中でも話がありました。以上です。

(議長)  
他にはいかがですか？

(議長)  
はい、お願いします。

(委員)  
では逆に、幼稚園とか保育園から入学されるお子さんは、1年生の算数にかかわっていくことに関して、接続していくような方法というのは、どのような教科書がよろしいのでしょうか？

(議長)  
お願いします。

(専門員長)  
はい。どの教科書も、学習の導入期であることを意識しておりまして、1年生にとって、親しみやすい絵や写真等を豊富に掲載しています。例えば、東京書籍ですが、先ほど説明した1年生の①という別冊というか導入期だけの教科書、薄い教科書があるんですけども、これは、紙面の親しみやすさだけでなく、いわゆる背表紙がない、薄い状況になっていますので、算数ブロックが、大変置きやすくなっているというような装丁になっています。数学的活動がしやすい作りかなと思っています。啓林館は、子どもが直接教科書に書き込みがしやすいように、導入期のページだけは、厚手の紙を使用しているなど工夫がありました。以上です。

(議長)  
よろしいでしょうか。はい。

(議長)  
他にはいかがですか。はいどうぞ。

(委員)  
はい。プログラミングについて、今のご報告ですと、学校図書のところに

しか触れていないのですが、他の教科書にも扱っているものがあったように思うんですが。

(議長)

お願いします。

(専門員長)

はい、お答えします。プログラミング教育はプログラミング的思考、つまり筋道を立てて物事を考えることですので、算数科の本質として、数学的思考においてプログラミング的思考を求められますので、どの教科書を使ったとしてもプログラミング教育を行うことは可能です。例えば、ひっ算のアルゴリズムなどについては、これはプログラミング的思考の素地を養うこととなります。ですが、プログラミング教育を明示して構成している教科書は、各者の取り扱いに差があります。6者申し上げたいと思います。東京書籍につきましては、5年生6年生の教科書に、プログラミング教育用のデジタルコンテンツがあります。大日本図書は、全学年プログラミング教育のページがあるんですが、デジタルコンテンツが用意されているのは、5年生と6年生です。学校図書は、全学年にプログラミング教育のデジタルコンテンツがあります。教育出版は、5年生にデジタルコンテンツがあります。啓林館も同じく、5年生にデジタルコンテンツがあります。日本文教出版も同じく、5年生にデジタルコンテンツがあります。以上です。

(議長)

他にいかがでしょうか。

(議長)

よろしいですか。はい、質疑がなければこれで質疑を終了といたします。ありがとうございました。

(専門員長)

ありがとうございました。

(議長)

では、続いて小学校理科の専門員長を入室させて下さい。

(議長)

説明お願いいたします。

(専門員長)

はい。皆様、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、理科専門員長を務めます、越生町立越生小学校、校長の竹田聡でございます。これより、理科調査研究の結果を説明いたします。理科では5者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」、「地域の子どもの学びやすい観察・実験や資料等について」、「ICTの活用やプログラミング教育など新しい内容の取扱いについて」、「その他」の4つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」についてご報告申し上げます。はじめに「観点1」についてご説明いたします。よい点といたしましては、単元の最初のページに、探究活動の例が見開きで大きく取り上げられており、「理科のミカタ」では、各場面で働かせる理科の見方・考え方が示してあり、児童にも分かりやすく示されています。そして、「問題」「観察・実験」「まとめ」が大きく示され、「問題解決の流れ」が分かりやすく書かれています。一方で、問題点としては、重要な語句がまとめの文章の中に書かれ、太文字と下線、るびで強調されるため、児童によっては見づらい印象を受けるのではないかと考えました。次に、「観点2」について、ご説明いたします。よい点といたしましては、大きめの図や写真など見やすい資料が多く、学習内容は分かりやすい点、観察・実験器具の使い方が丁寧に書かれているため、授業を進めやすいと思われます。また、理科のひろばで理科の学習を役立てている仕事が紹介され、将来の職業、キャリア教育にも繋がります。一方、問題点としましては、イラストで、教師のつぶやきや発問までが示されているため、教師主導の授業となり、子どもの発想の広がりが制限されるのではないかと考えました。最後に「観点3」についてご説明いたします。よい点といたしましては、主に天候や災害などの学習において、ICTを活用する内容が紹介されています。しかし、東京書籍のデジタル教材に接続するためのQRコードが、途中ではなく巻末にあるため、接続に一手間かかるため、活用については、課題があると思いました。また、その他といたしましては、東京書籍のみA4のフルサイズです。しかし、教科書の重さは5者中3番目の重さでした。とてもいねいに書かれています。しかし、児童の疑問や予想まで書かれているため、教科書を使うことで、児童の「主体的な学び」や「対話的な学び」に結びつけづらいという意見がありました。また、「プログラミングをやってみよう」の内容は、パソコンやセンサーなどが必要であるため、各学校のパソコン等の環境による部分が大いという意見もありました。

次に、「大日本図書」についてご報告申し上げます。はじめに「観点1」についてご説明いたします。よい点といたしましては、問題解決の過程において、学習の流れが意識しやすい構成になっていて、対話型で例示し、疑問や予想の具体例まで示していないため、子どもの考えが広がるように工夫しています。一方で、問題点としては観察・実験の器具の例示が少ないため、計画を立てられない子どもへの配慮が必要となります。次に、「観点2」について、ご説明いたします。写真や観測データがとても多く、生活や歴史と関連付けてあり、理科好きな子どもは楽しく学べるつくりになっていて、「理科の玉手箱」のコーナーで生活との関連付けが示されています。また、3年生の巻末の「春の動植物図鑑」は、野外観察に有用であり、4年生でも使えます。また、危惧されることとしては、子どもの活動中心の構成になっ

ているため、理科の指導に不慣れな教員はうまく対応できず、予想外の準備や時間が生じる可能性があります。最後に「観点3」についてご説明いたします。DVDの視聴覚教材があるので、インターネットに依存せず映像資料を使うことができます。一方で、他者に見られるようなQRコードがないので、教科書とデジタルコンテンツとのつながりが分かりにくいという意見がありました。また、問題点といたしましては、「プログラミングを体験してみよう」では、パソコンやセンサーの準備の他にG P I Oについて教員への講習会が必要となります。その他といたしましては、理科で大切にしたい「子どもの発想」や「話し合い」、「妥当性の検討」などを重視した構成で、理科指導に長けている教師と初めて理科を教える教師の間に指導力の差が生じるのではないかと思います。また、3～5年生はパソコンや特別な教材を用いず、これまでの学習内容の考え方を焦点化することで、論理的な思考が養われるように工夫されています。したがって、I C Tの環境の影響は少ないと思われます。

次に「学校図書」についてご報告申し上げます。はじめに「観点1」についてご説明いたします。よい点といたしましては、教科書の下のところ下部に「問題解決の流れ」がどの活動にあたるかを示しているのが、分かりやすく示してあります。また、重要語句が「大事な言葉」として抜き書きしてあり、見やすくなっています。一方、問題点として、導入で単元全体の学習内容が書かれ、「調べていこう」と示されているため、見通しを持たせやすい反面、学習活動が確かめ中心になり、子どもの自由な発想が生じにくいと思われます。次に、「観点2」について、ご説明いたします。よい点といたしましては、「話し合い」「予想・計画」「観察・実験」「結果」「考察」と理科の一般的な子どもの活動が分かりやすく示されています。また、場面によって、3人の児童の対話を用いて、意見や考えを広げさせようとしています。一方、問題点としては、予想から観察・実験となっており、子どもが観察・実験を計画する場面があまり顕著に示されていないため、自分たちで疑問を解決する観察・実験にならないのではないかと懸念がありました。最後に「観点3」についてご説明いたします。よい点といたしましては、デジタル教材に接続するQRコードが、学習内容と同じページにあり、動画等の資料を活用しやすくなっています。一方、問題点といたしましては、プログラミングでLEDの点滅を正答まで記載しているため、児童の思考する場面がありません。また、プログラミングの練習のために、インターネットへの接続が必要になるため、パソコンなどの環境により差が生じられると思われます。その他といたしましては、家電や工事現場など、使われている写真が、あまり新しいものではなく、若干古い印象があります。また、発展の扱いではありますが、プログラミングの発展的な内容が最も少ない扱いになっていました。

次に、「教育出版」についてご報告申し上げます。はじめに「観点1」についてご説明いたします。よい点といたしましては、その学年の学び方や国語との関連が具体的に示され分かりやすく、重要な語句が黄色で塗られていて、分かりやすい点があります。一方、問題点としては、教師が問いかけるイラストまでがあり、発問が限られてしまうのではないかと思います。また、予想と観察・実験が「予想しよう」「計画しよう」1つの流れになっているため、子どもの解決にならないのではないかと思います。次に、「観

点2」について、ご説明いたします。よい点といたしましては、「思い出そう」では理科の既習事項の確認があり、予想や計画に役立つと考えられます。また、3年生の巻末に「春の動植物図鑑」、4年生に星座早見、6年生の人体内蔵図があり、体験型の教材が充実しています。一方、問題点としては、観察・実験後の「結果から考えよう」と「結論」が近くに書かれているため、子どもが「考察」をする活動が難しいと思われます。また、「チャレンジ」や「発展」は、中学校の先取り学習が多く、中学校での学習時に新鮮さが損なわれるのではないかとという危惧がありました。最後に「観点3」についてご説明いたします。他者と比べ特によい点という意見はありませんでした。問題点としては、教科書の当該ページにQRコードはありますが、気象庁などに接続するリンク集のため、必要な情報を得るためにアクセス先を探す手間が必要となります。また、タブレットやデジカメは撮影を、パソコンはインターネットで調べることのみを促しておりましたので、従来の使用方法と同じと考えました。その他といたしましては、「資料調べ」で、「深い学び」をさせようとしています。プログラミングの事例が、Scratchを紹介しているのみで終わっています。

次に、「啓林館」についてご報告申し上げます。

はじめに「観点1」について説明いたします。よい点といたしましては、「問題」と「まとめ」は色を変えて強調され、問題解決の流れが明確になっています。そして、「もっと知りたい」を「まとめ」の後に設け、新しい問題を見いだす工夫が見られます。また、単元前と単元後の自分の考えを比べることができるよう工夫されています。一方、問題点としては、「問題」と「予想・計画」に子どものつぶやきが示され、そのまま「観察・実験」へとつながるため、子どもの発想や仮説の解決にならないのではないかと考えられます。次に、「観点2」について、ご説明いたします。よい点といたしましては、淡い色使いで、ユニバーサルデザインに対応した見やすい構成になっています。また、観察の補助教材として、QRコードで動画等への資料は活用しやすく、「動植物探検カード」、「雲の観察カード」、「月の満ち欠けモデル」も子どもたちが調べたり、考えたりするのに役立つと考えました。一方、問題点としては、導入部の「思い出してみよう」は、これからの学習内容との関連が分かりにくいものがあり、この場所では不適切だという意見がありました。最後に「観点3」についてご説明いたします。よい点といたしましては、教科書のQRコードからNHK for schoolなどの映像教材に接続できるので、カメラ付きのタブレットパソコンでみることができます。また、6年の「プログラミング学習」では、プログラミングを「シート&シール」を貼ったり剥がしたりしたりしながら学ぶことができ、その後にパソコンで確認させると効果的であり、他者にはない教材でした。

その他では、子どもが関心を持つような写真資料が多く、教科書の重量が最も小さいこと、プログラミンを学習できるコンテンツに接続でき、センサーなどの機器が無くても学べることなどがありました。

以上でございます。よろしくお願いたします。

(議長)

はい、ありがとうございました。

では、ただ今の説明につきまして、ご質問等をお受けします。



(議長)  
どなたかいらっしゃいますか。

(議長)  
はい、お願いします。

(委員)  
すみません、理科で言うプログラミングのその定義は何でしょうか。

(専門員長)  
はい、ありがとうございます。はい、理科の定義は、プログラミングが具体的に扱われているものとしたしましては、6年生の電気の利用という単元で使うことになっております。そこのところでは、エネルギーの有効な活用の観点から、センサーのライトや、センサーによって電気がついたりとか、制御したりですとか、エネルギーをいかに活用するかという、その単元で扱うことになっております。よろしいでしょうか。

(委員)  
じゃあ、あのシステムとかそういうことは違うということですか

(専門員長)  
そうですね。はい。

(委員)  
ここでICTとかその端末自体操作することを言ってるんでしょうか。

(専門員長)  
それは、啓林館のことでしょうか。

(委員)  
あ、これ全てにおいてです。

(専門員長)  
操作というか、つくるところまでは特に求めてはいないです。それで全ての教科書で、発展として扱っております。

(委員)  
あともう一点だけ。目次がある教科書とない教科書がありますけど、些細なことですけど、これはその伝える側として、指導者として何かそのありますか。あった方がいいとか。

(専門員長)  
特には。学ぶ順番に関しましては、やはりあの天候とか、状況によって自然のものに関しては、順番が入れ替わることがありますので、この通りやら

<p>なくてはいけないということはないので、それほど調査記録では意識しませんでした。</p> <p>(議長) 他にどうですか。</p> <p>(議長) はいどうぞ。</p> <p>(委員) 理科においては実験と観察が重要だと思うんですけども、教科書に数の差というのはあるのでしょうか。</p> <p>(専門員長) はい、ありがとうございます。若干の差はありますが、主な実験に関しては、観察・実験にはほとんど差はありません。</p> <p>(議長) はい、お願いします。</p> <p>(委員) 調査資料の表記の仕方なんですが、○、△とあと・がありますよね。・の意味をちょっと教えてもらいたいのですが。</p> <p>(専門員長) ・に関しましてはその他のところで、どちらでもとれるような項目として、私たちの方でも判断をその他として。3つの観点に関しましては、よいところ、悪いことところ、というところで話をしたのですが、それに関しましては、あくまで差を出したということです。よろしいでしょうか。</p> <p>(委員) はい。</p> <p>(議長) はい、お願いします。</p> <p>(委員) 子どもの発想とかっていうのですけども、例えば東京書籍さんですと、「教師のつぶやき（発問）まで示されているため、子どもの発想が広がらない可能性がある。」とあるのですが、逆に広がったり深めたりする可能性もあると思うのですけれども、それはどうなんですか。</p> <p>(専門員長) はい、それは教科書を先生によって、教科書を通り進められてしまうと、先に全部教科書に載ってますので、あまりこう発展しないのかなというところなんです。ですので、その教科書の内容を、教師の方がきちんと頭に入れ</p>
--

ながら先に展開していけば、今ご指摘があったように差は生じないと思われ  
ます。それであるの補足いたしますと、若い先生たちが教える時に、この通り  
全部開いてぱっと流してしまうと、観察・実験の子どもの発想が、もしかす  
ると制限されてしまうのではないかという意見がありました。使い方次第か  
と。よろしいでしょうか。

(議長)

他にご質問はありますか。

(議長)

よろしいですか。はい、質疑がなければ、これで質疑を終了いたします。  
お疲れ様でした。

(専門員長)

ありがとうございました。

(議長)

それでは次に、小学校生活科の専門員長を入室させてください。

(議長)

ではお願いします。

(専門員長)

では、失礼いたします。みなさん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、生活科専門員長を務めます、富士見市立ふじみ野小学校の、校長の  
北田でございます。これより、生活科調査研究の結果を説明いたします。生  
活科では、7者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたし  
ましては、写真や資料、教科書の大きさ等の「レイアウトについて」、児童  
の気付きの吹きだしの内容や授業の流しやすさなど「気付き・内容につい  
て」、そして「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元  
の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し  
上げます。はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、  
A4版でございます。今回の検討候補の中で一番大きく、重いものですが、  
紙の質はよいものでございます。また、写真が見やすく、葉っぱや木の実の  
イラストも本物に近く、鮮明でございます。次に「気付き・内容」について  
ご説明いたします。まず、気付きについてですが、子どもの視点に立ったふ  
きだしコメントが多く掲載されております。内容については、身の回りの物  
を生き物に例えるクイズで興味づけしてから生き物の単元に入るなど、児童  
の活動の広がりをも促す構成になっております。また、本当の大きさずかん、

ポケットずかんが分かりやすく工夫されております。かつどうべんりてちようも充実しております。スタートカリキュラムとして、「がっこうせいかつすたあと」に保護者向けのコメントがあり、入学当初の学習が円滑に行える工夫がございます。最後に「その他」についてご説明いたします。その他は、主に、今回各教科書で工夫されている、QRコードの掲載について申し上げます。東京書籍では、目次にQRコードがついて、探検や遊びの約束などの2秒程度の短い動画がございます。

次に「大日本図書」についてご説明いたします。はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、A4変形版で、たてはA4より3cmほど小さいサイズでございます。低学年でも扱いやすい大きさであると考えます。表紙には、でこぼこのデザインが施されており、手に取った瞬間に認知しやすく、さわりごこちもよいので児童が親しみを持ちやすいと考えます。また、イラストより写真を多く掲載されております。また、ふうせんの中に書かれている単元の見あてが分かりやすく、教師が学習を進めやすい工夫がされております。次に「気付き・内容」についてご説明いたします。まず、気付きについてですが、ページ右端のミニコラムに特色があります。上巻・下巻共に、せいかつことば、きらきらことば、低学年のうちに育てておきたいことばが載っていて児童が気づくヒントや、教師が教えるためのヒントになっております。また、がくしゅうどうぐばこが充実しており、四季折々の折り紙、夜の街のイラスト、学校探検カメラ等、触る、見る、変化するなどの感覚を活用する働きかけが工夫されております。さらに、子どもの視点に立ったふきだしコメントがあり、児童の具体的な活動が分かりやすく、経験の浅い教員が教科書を使って教えやすく、指導のポイントが分かりやすい教科書だと感じます。最後に「その他」についてご説明いたします。裏表紙にQRコードがついており「おもちゃの作り方動画」等が見られます。

「学校図書」についてご説明いたします。はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、A4版変形、たてが1.5cmほど小さいサイズです。他者と比べて大きく、低学年は引き出しの出し入れに手間取る可能性がございます。重さはその割に軽いものでございます。写真のレイアウトについては、配置がよく、子どもの表情がよい写真が多いです。しかし、イラストの質は、より本物や自然に近づくとよいと感じます。次に「気付き・内容」についてご説明いたします。「どきどき、いきいき、ふむふむ、にこにこ」の段階で、教科書のページに単元計画が示されており、指導計画が立てやすいと感じます。また、自分で書き込める場所があり、その時の学習を残せる工夫がございます。さらに、教員にとって、教科書の中にワークシートへの記入文例が豊富に載っており、投げかけのコメントも工夫されているので経験が浅い教員も着眼点がわかると感じます。最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードがついており「あそびのやり方」等が見られます。

「教育出版」についてご説明いたします。はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、A4変形で、薄くて軽い教科書です。また、イラストが多く、写真の印象がやや薄いと感じます。次に「気付き・内容」についてご説明いたします。子どもの疑問から学習をスタートさせ、児童が教科書を隅々まで見たくするような工夫が施されています。たとえば、

上巻P77には、「どんぐりクイズ」下巻には「やさいとくだものクイズ」等のクイズは、児童の意欲を引き出すように工夫されております。学びのポケットという資料があり、関連教科が示されており、カリキュラムマネジメントへの配慮がなされております。また、自分で書き込める場所があり、その時の学習を残すことができます。「こんがらがっち」という絵本のキャラクターが使われており、子どもたちが親しみやすいと感じます。さらに、「まんぞくハシゴ」が各単元に設定され、活動の意欲等を振り返り自己評価ができます。ただ、子どもの気付き、発言のふきだしがもっとあるとよいと感じます。最後に「その他」についてご説明いたします。目次「学びリンク」のQRコードから、「あさがおのめ、はさみ、セロハンテープ、きりの使い方」などの情報資料が見られます。保護者向けのコメントが掲載されております。

「光村図書」についてご説明いたします。はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、A4変形、やや厚めのサイズです。イラストが多く、絵画的で、写真がもっとあるとよいと感じます。「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階で単元構成がされ、学習の流れをつかむことができます。次に「気付き・内容」についてご説明いたします。子どもの気付き、発言のふきだしがもっとあるとよいと感じます。ワークやカードへの教師のコメントの中に、「春ですね」「夏ですね」「秋ですね」「冬ですね」というものがあり、経験の浅い教員にとっては参考にしにくいと感じます。巻末の上巻・下巻8ページずつのシールは、低学年に使わせるのは大変かも知れません。最後に「その他」についてご説明いたします。連動コンテンツQRコードから、道具の使い方・季節・安全のカテゴリに分かれた資料を見ることができます。写真が多く、動画は少なくなっております。

「啓林館」についてご説明いたします。

はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、A4変形で、裏表紙に自分のマークが書けるようになっています。また、ページの右下に「めくり言葉」というものがあり、次の活動の期待を持たせるとともに、教師も学習の流れがつかみやすい工夫がなされております。次に「気付き・内容」についてご説明いたします。スタートブックが、接続期プログラムを意識して作られており、幼稚園・保育園で学習したことを思い出して、小学校生活に接続していただけます。「わくわくボックス」という資料には、児童の関心意欲を引き出す工夫があります。例えば、本当の大きさを示したページが見やすくなっております。また、カリキュラムマネジメントを意識して作られており、他教科との連携を図りやすくなっています。また、単元の終末に「ひろがるきもち」が設けられ学習したことを生活に広げるヒントとなっています。さらに、教師の手だてが教科書に記述されており、経験の浅い教員にも言葉かけや学びの深めさせ方がわかるように工夫されている。最後に「その他」についてご説明いたします。QRコードがたくさんページに記載されており、多様な映像・音声資料を見ることができます。セミの鳴き声など、児童の意欲を引き出す教材が、スマホやタブレットがあれば、家でもすぐアクセスできます。ICTの活用を前提とした教科書で、学校でもかなり効果的に活用できると感じます。

「日本文教出版」についてご説明いたします。はじめに「レイアウト」についてご説明いたします。大きさは、A4変形で薄く、軽い教科書です。次

に「気付き・内容」についてご説明いたします。「ちえとわざのたからばこ」という資料には、技能についてのヒントが掲載されております。山折りにすると、植物の変化を比べられる工夫があります。また、P135には、点字が紹介されていて、実際に触れることができます。さらに「ふりかえる つなげる」のページがあることで、活動したことを発展させたり継続させたりする意識を持たせやすくなっています。ただ、子どもの気付き、発言のふきだしがもっとあるとよいと感じます。最後に「その他」についてご説明いたします。Dマークで、参考資料が見られます。QRコードではなく、ホームページの紹介となっております。

説明は以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問等お受けします。はい、

(委員)

はい。あの、「経験の浅い教員」という言葉が何度も出てきてるんですけども、どういう意味ですか。

(専門員長)

各教科書の工夫の欄に、まだ生活科を指導したことのない先生方にもわかるように単元配列が工夫されております。先程も話したように3段階で、工夫、単元構成されていたり、4段階で工夫されていたり、その他、次の学習への投げかけのヒントであるとか、そういうヒントが、まばらにちりばめてあるということでございます。

(委員)

そうすると、その教科書自体は子どもたちの為だと思うんですけども、経験があろうがなかろうが、ずっと使っていけるって一番いいってわけですよ。

(専門員長)

はい。

(委員)

これ、教師の為のものではないですよ。そこに、経験が浅いだどうのこうのとか、ベテランがどうのこうのとか、教科書に関係ないコメントかなと私は思うのですけども。

(専門員長)

はい、それにつきましては、調査員の調査結果と、あと教科書会社のもので、工夫欄とかを色々考えまして、子どもにとってもよいですし、教員にとっても使いやすい教科書だということで、載せさせていただいております。

(議長)

他に質問はございますか。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

はい、啓林館のところに、真ん中へんですね。「カリキュラムマネジメントを意識し、他教科との連携を図りやすい。」とコメントあるのですが、ちょっと具体的に分かりやすく説明していただけますか。

(専門員長)

はい、今回の生活科の中で、カリキュラムマネジメントを意識した教科書が数冊あります。例えば啓林館にいたしますと、後ろの方にですね、学習図鑑というところがございますが、この学習は、国語や算数と連携してやると、より効果的でありますよとか、例えば何か、絵を、生活、生き物の勉強をする時とかにも、図工と関連してやるとより効果的ですよですとかですね、色々表現を、その他には、学校生活の、学校生活で学んだことを、色々なことで表現しようという時に、体育の表現運動で一緒にやったりとかですね、図工でやったりとか、各教科と連携させることによって、さまざまな教科で効果が上がるように、教科書会社で工夫されているということでございます。

(委員)

はい。

(議長)

はいどうぞ。

(委員)

啓林館以外に、今のように感じられる教科書というのは、あと何者ぐらいありますか。

(専門員長)

カリキュラムマネジメントに関しましては、教育出版が、教育出版の教科書が、カリキュラムマネジメントの配慮が大きいかなと思います。

(議長)

はい、他にいかがでしょうか。

(委員)

大日本図書さんと啓林館さんは、特に改善点がない、ということで理解してよろしいのでしょうか。△マークがないんですけど。

(専門員長)

調査員と色々私たち見まして、〇のコメントが多くなったという結果でございます。

(委員)

ありがとうございました。

(議長)

はいどうぞ。

(委員)

生活科のねらっているのは何なのでしょうか。

(専門員長)

生活科のねらいは、究極的には自立への基礎を養うということでございますが、生活科は児童の生活圏を学習の対象の場としております。その中で直接活動したり、体験などを重視しながら、その中で様々な気づきを経て、これからの生活の自立への基礎を養うことをねらいとしております。

(議長)

他にありますか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

生活科を教えていくうえで、教科書としてはそのどんな要素がやっぱり必要で、どんな要素があったら教えやすいのでしょうか。

(専門員長)

はい、生活科は子どもたちの活動とか体験が重要視されますが、教科書の中には、それに関する写真であるとか、それに関するイラストであるとか、また、生活科を勉強し子どもたちが調べていく時に、資料になる図鑑であるとか、子どもたちのヒントになるような、気づきの言葉であるとか、またあとは先ほども言いましたが、ワークシートに先生がこういうコメントを書いてあげるってようなことを、重要になってくるのかなと感じております。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

他はいかがですか。



(議長)  
よろしいですか。はい。

(委員)  
じゃあ、今出たその写真を使った充実しているっていうのは、どの教科書なんですか。

(専門員長)  
はい、写真が充実してるのはですね、東京書籍さん、大日本図書さん、教育出版さん、啓林館さんだと思っております。

(議長)  
他にどうですか。

(議長)  
よろしいですか。では質疑がなければ以上で質疑を終了といたします。ありがとうございました。

(議長)  
ここで休憩といたします。再開を2時45分とさせていただきます。お願いします。

(議長)  
続いて小学校音楽の専門員長を入室させて下さい。

(専門員長)  
失礼します。

(議長)  
説明、お願いします。

(専門員長)  
はい、こんにちは。

(委員)  
こんにちは。

(専門員長)  
私は、音楽科専門員長を務めます、越生町立梅園小学校長の高橋でございます。これより、小学校音楽科調査研究の結果を説明いたします。小学校音楽科では2者について、調査研究を行いました。新学習指導要領にある「学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫」として、調査研究の観点を、まず「子どもの学習意欲を高める工夫について」とし、子どもたちが楽しみながら学習できる教科書かどうかについて研究しました。また、その他

に、「思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫」や「音楽的な見方・考え方」を働かせることが、深い学びの鍵となりますので、教師の専門性が発揮されることが求められます。そこで「教師の授業力を高める工夫について」と「その他」を設定し研究いたしました。結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは始めに、「教育出版」について調査研究結果をご報告いたします。「観点1の子どもの学習意欲を高める工夫について」です。1つ目は、「スキルアップ（歌声とリズムのトレーニング）」という活動が、2年生以上で取り上げられています。例えば、3年生ではリズム遊びをしながら、4年生では早口言葉で遊びながらなど、楽しく学習できるように工夫されています。2つ目は鑑賞です。身体を動かしたり声を出したりする活動があり、子どもたちが実際に動きながら実感を伴って楽曲の特徴を捉えることができるように工夫されています。3つ目は、歌唱教材についてです。例えば、3年生で学習する「ふじ山」、4年生では「さくらさくら」、5年生では「こいのぼり」など、歌唱共通教材の写真が大きく見開きで載っているため、臨場感があり、情景を思い浮かべやすく、子どもたちがどんなふうに歌えばよいのか考えられるようになっていて、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされています。△課題や工夫してほしい点として、背景が青地で文字が黒というように、色づかいに差がないため歌詞が読みづらい箇所があったり、文字が多かったり、背景などの色がきつい部分もあるので、学習しづらい箇所があったりもします。次に、「観点2の教師の授業力を高める工夫について」ご説明いたします。1つ目は歌唱曲が豊富ということです。たくさんの斉唱曲や例えば、「森のくまさん」などの交互唱、「かえるの合唱」などの輪唱、「音楽の贈り物」や「さんぽ」など、全校で歌える合唱曲などバラエティーに富んでいて、様々な形態の歌唱を学習させることができます。2つ目は「音のスケッチ」という学習の音楽づくりが豊富です。学期に1回以上学習することができ、低学年では、簡単なリズム打ち、中学年では、声や楽器を使って、高学年では、和音や音階を使って、6年間を通して系統的・発展的に音楽づくりを積み重ねて学習できるように工夫してあります。3つ目は、すべての楽曲で「音楽のもと」という学習があります。これは音楽の諸要素である「音色やリズム、強弱」などについて、1年生の段階から着目させることで、思考力・判断力・表現力を育成していこうというねらいに沿って作られています。課題や工夫してほしい点としては、合奏曲では、細かな音符が多かったりテンポが速かったりする楽曲があるため、指導に時間がかかると思われます。また、教師の指導力も問われ、音楽専科でも難しい楽曲があり、音楽専科でない学級担任ではかなり大変なのではないかという楽曲もございます。最後に「観点3その他」についてですが、「学び合う音楽」という学習が3年生以上にあり、子ども同士で「旋律の特徴」や「リズムの特徴」などについて教え合ったり考えたりしながら学習できるように工夫されています。

次に、「教育芸術社」について説明いたします。「観点1の子どもの学習意欲を高める工夫について」ですが、歌唱曲では「様子を思い浮かべよう」という目標が各学年にあり、情景をイメージしやすく想像力を高めることができ、子どもたちがどんなふうに歌えばよいのか考えられるようになっていきます。2つ目は、巻末に「みんなで楽しく」という合奏曲があり、簡単なア

レンジで子どもたちが大好きな「ミッキー・マウス・マーチ」や「アフリカン・シンフォニー」「コンドルは飛んでいく」など、世界の音楽に触れられる楽しみがあり、仕上がりも早く親しみやすくつくられています。特に、主旋律が簡単で楽器が苦手な子どもでも、学習しやすいように工夫されています。3つ目です。前の学年で取り扱った楽曲、例えば、2年生の鑑賞で学習した「ミッキー・マウス・マーチ」を3年生の器楽で学習したり、5年生で鑑賞する「威風堂々」を器楽合奏という、別の形で繰り返し取り扱うものもあり、発展的に学習できるように工夫されています。4つ目は、日本の民謡では採譜、クラシックなどの鑑賞曲は図形楽譜が示されています。その採譜や図形楽譜を指でたどることで、楽曲の音の高さやリズムなどを眼と耳で確認することができるように工夫されています。次に、「観点2の教師の授業力を高める工夫について」ご説明いたします。1つ目に、「よびかけとこたえ」を生かした歌い方が4年生で示されていたり、北原白秋作詞・山田耕筰作曲の「まちぼうけ」では作詞者・作曲家・演奏者がどのような工夫をそれぞれしているのかなど、子どもたちに「音楽的な見方・考え方」に着目させながら、思考力・判断力・表現力を高められるように工夫がされています。2つ目です。器楽合奏の曲、例えば6年生で学習するホルストの「木星」では、技能が易しく、鍵盤ハーモニカや木琴など、いろいろな楽器を使って、有名なクラシック音楽を本格的に演奏できる楽曲があり、音楽専科でない担任でも指導しやすく作られています。3つめの音楽づくりでは、旋律や和音、リズムアンサンブルをつくるためのきまりやワークシート、旋律やリズムの例などが掲載されています。また、それらの組み合わせを入れ替えたり、自分たちで作った音楽をどのように始めるのか、さらには強弱や速度はどうするのか、終わり方はどうするのかを考えたりすることでプログラミング的思考につながる学習ができ、授業の質を高められる工夫がされています。4つ目は中高学年の鑑賞では「どんな感じがしたか」「なぜ、そう感じたのか」を記入できるワークシートがあり、音楽の諸要素を聴き取り、感じとったことの知覚・感受に着目させながら学習を深められる工夫がされています。最後に「観点3その他」ですが、1年から6年まで巻末に「振り返りのページ」という項目を設けおり、毎時間の復習に使ったりしながら、6年間を通して系統的な学習が行われるよう工夫がされています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明につきまして、ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。何かありますでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

<p>教育出版の方で、指導力も問われ、音楽専科でも難しいという曲があるよ うなんですけれども、例えばどういう曲なんですか。</p> <p>(専門員長)</p> <p>はい、ルパン三世のテーマです。それからもう一つですね。ルパン三世の テーマはですね、やはり16分音符っていうタタタタッタッタッというこ う細かいリズムがあるので、それを全体で合わせるのはかなり難があるかな あというふうに思われます。</p> <p>(議長)</p> <p>他にはどうでしょう。</p> <p>(議長)</p> <p>ございませんか。では質疑がないようでしたらこれで質疑を終了といたし ます。ありがとうございました。</p> <p>(専門員長)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(議長)</p> <p>それでは小学校図画工作の専門員長を入室させてください。</p> <p>(専門員長)</p> <p>失礼します。</p> <p>(議長)</p> <p>では、説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長)</p> <p>はい、それでは始めさせていただきます。私は、図画工作科専門委員長を 務めさせていただきます坂戸市立大家小学校の校長の武藤篤美でございま す。これより図画工作科調査研究の成果についてご説明いたします。図画工 作科ではですね、2者について調査研究を行いました。その観点といたしま して、1つ目は「児童の表現力を伸ばし、創造性を培うことができるよう工 夫されているか」、2つ目「学校教育法第30条2項（基礎的な知識、技 能・思考力、判断力・主体的に取り組む態度）に即した題材設定がなされて いるか」、3番目「日本の伝統文化に関わる題材設定、そのよさを深く理解 できるよう工夫されているか」、そして「その他」の4つを設定し、その結 果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。</p> <p>それでは最初に、「開隆堂出版」についてご説明させていただきます。 はじめに「観点①」、児童の表現力を伸ばし、創造力を培うについてです が、いくつかの題材にQRコードがついております。これは、持っている携 帯で、用具の使い方や指導方法が、その場で動画で確認できるように工夫さ れております。さらにプロジェクターに接続すれば、導入の段階で、子ども の興味、関心を高めることができる大変便利なツールになっております。今日</p>
--

若い教員には、このツールは何の抵抗もなく授業研究に利用することができ、今後もこのようなことは、発展していくと思われま。調査研究の中で、私も一緒に研究にいたんですが、大変便利な内容で、本当に躊躇なく子どもたちがその場で、興味あることが確認できるという内容でございます。

改善点は、全学年に共同で粘土を扱う材料がありますが、学校予算で粘土を大量に購入することは大変難しく、個人持ちとしても保護者への負担が大きいと考えられますので、実践にはちょっと困難が付きまとうかなというふうに思います。次に「観点②」基礎的な知識、技能・思考力、判断力・主体的に取り組む態度についてでございますが、材料や用具の扱いについて、低学年から、写真で大変分かりやすく説明されております。材料体験が低学年から丁寧に指導できるよう工夫されております。年間指導計画にも位置づけやすく、児童の発達に合わせた材料体験が構成されていると思います。教員が指導することもきちっと考えて構成されており、また、短時間で取り組める題材も多く掲載されております。授業時数が少ないなか、どの教員も短時間で楽しく取り組む内容が充実していると思います。改善点は、造形あそびということがあるのですが、その場の設定や用具、準備から後片付けを考えると、時間続き等の工夫が必要であり、時間割の変更等も考えないといけません。実際には、ちょっと困難な授業の題材になると思われま。次に「観点③」日本の伝統文化に係る題材設定でございますが、中学年から高学年、4～6年生でございます。日本の伝統工芸や日本美術の鑑賞が設定されております。特に6年生の水墨で表現された「龍」をとりあげた鑑賞資料は、子どもたちの興味、関心を高め、日本美術の入口へと案内してくれます。水墨画の素晴らしさを鑑賞したあとは、実際に墨を使った題材が設定され、指導計画に沿った内容となっております。また日光などの修学旅行に行った場合、その事前学習としても役立つ内容ものと思われま。改善点ですが、この観点③については、特に改善点はございませんでした。最後に「その他」でございます。のり、セロハンテープ、接着剤等の使い方が、低学年から具体的に見やすく示されております。小学生にとって、付けたり貼ったりする行為は、大変楽しく夢中になるものです。教える側の教員も、案外正しいはさみの使い方や、カッターの使い方を知らない場合も多いのでございます。そういった点も分かりやすく、用具の説明も、きちっとしてありますので、そして注意事項なども分かりやすく示されております。改善点は、ハサミの左利き用の扱いが小さく、ちょっと分かりにくい点でございました。

次に、発行者「日本文教出版」について、調査研究の観点にそってご報告申し上げます。最初に「観点①」でございますが、様々な材料を扱うページが8ページ設定してありまして、児童が自分の表現に適した技法を選べるようになっております。図工を教える経験が少ない教員でも、大変安心して指導できる内容となっております。改善点は、抽象的な作品を制作する題材が、高学年で多く設定されております。これは教材研究が、ちょっと困難な点でございます。いわゆる抽象的な表現をよく理解するには、小学生では時間がかかり、また作った作品も自分の価値として、それをとらえるにはちょっと難しい題材でもございます。次に「観点②」でございます。高学年の制作に参考となる資料が、たいへん豊富に紹介されており、児童の表現力・思考力を育むようなよい資料となっております。また、ハサミの使い方等も、左利き用もしっかり示されており、教員が安全面でもていねいに指導できる

よう、そんな内容になっております。改善点は、海外や日本のアーティストの作品を、そのまま児童の作品の題材として扱っていることがあげられます。特に現代の美術のアーティストの作品のモデルにしたものがあり、現場の教員がですね、これを指導するという点には、大変困難な場面が多くあると感じられます。小学生や現代美術を扱うようなテーマに面白さを感じるには、発達の段階から考えると、もう少し時間が必要と思われます。また教員も、これをどのように指導したらいいのかなというふうに迷うというふうに思われます。次に「観点③」日本の伝統文化に係ることでございます。4年生では、日本の伝統工芸品を材料別に扱った資料は、2ページ見開きにわたる資料ですね、大変かりやすくレイアウトされていると感じました。日本全国の伝統工芸品が一目で理解できるように示されておりまして、埼玉のもきちっとそこに示されておりまして、身近な郷土玩具なども紹介されておりまして。改善点は、日本の伝統的な美術文化（浮世絵や日本画等）の参考資料が少なく、特に高学年の教科書には、日本美術の鑑賞材料が、資料が少ないということでございます。小学校の高学年ぐらいになりますと、鑑賞は最も適している題材と思われまして、できましては最近話題になっております伊藤若冲とか、展覧会で話題になってる運慶とか、そういった資料が望ましいなというふうにそんな代表的な作品を、紹介してほしいところがございます。最後に「その他」でございますが、プラスチックストロー等を使った題材があり、今後は環境問題も含めてプラスチック製品を使った制作は、注意が必要かなというふうに思います。私たちの思い以上にストローとか、そういったプラスチックの扱いが急速に進んでおりますので、今後は世の中の流れを受けて、プラスチックの題材等は、うんと研究をして、できれば木材の方に移行していった方がいいのかなという、これは個人的な意見でございます。まとめとして、若い教員が多くなっている現状では、初めて図工を担当する教員や、図工を苦手意識を持っている教員でも、教科書を通して安心して指導できる内容が適切であると思いました。児童はですね、学校で学ぶ学習の中で、好きな教科の常にトップにある図工でありますので、教員も教科書を通して図工を好きになる、楽しんで題材開発や材料体験が校内研修として活かせることが望ましいと思っております。

以上、2者の説明を終りにします。ありがとうございました。

(議長)

はい、ありがとうございました。

それではただ今の説明につきまして、ご質問を受け付けたいと思います。

(委員)

はい。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

2者しかないので、開隆堂さん、その私も日本文化すごく大事だと思うんですけども、この教科書の、特に鑑賞とかの優れているところ、もし調査員

の中であつたら教えてください。ここ優れてるよっていうところ。

(専門員長)

はい、先ほど申しあげましたあの「龍」の鑑賞のページは、大変よかつたかなあとというふうに思います。そのあとの題材設定にも、非常に無理なく計算されたものが設定されておりますので、高学年の子どもたちが読んでばつと見て、おやという感じになるんですね。

(委員)

次につながっていくと。

(専門員長)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

若干意見なんですけど、今の員長さんの方からの話の中で、日本文教出版の1点△のところ、海外や現代アーティストの作品をそのまま児童の題材云々というところなんですけども、ちょっとこれはそれぞれの専門員の嗜好が極端に表れているのかなあと。いわゆる子どもにとっての別に海外や現代アーティストに非常に反応する子どももいますしね、また、なかなかそれらに、現代アートに取り組みにくい教員もいるかもわからないけれども、まあ、取り組みやすい教員もいる、若干ちょっと踏み込みすぎの観点かなあと感じが私はしました。

(議長)

ご説明あれば、どうぞ。

(専門員長)

はい。現代アーティストの中でもかなり抽象的なものを扱っているアーティストが何人かいましたので、これだと恐らくですね、調査研究は現場の教員でしたので、私たちではちょっと、教えるときは厳しいのかなあとという意見がありましたので、このようにまとめさせていただきました。

(委員)

はい。

(議長)

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

(委員)

はい、開隆堂さんに扱われている粘土製作とか造形遊び、これらは、実際に授業で指導するには、色々な面で困難があるというふうに書いてございま

す。それから日本文教出版さんの方は、今の件がプラスチックストローの題材の注意が必要であるということなんですけど、こうゆう題材については、学校ではできないからやめて、他のものに変えるとかはできるんですか。

(専門員長)

指導計画の中で、最初に年度当初にもし設定した場合には、急遽変えるというのはなかなか難しいのですが、ただ、今後のストローですとか、そういった世間の流れが激しい場合には、急遽、題材を変えてということは、不可能ではございません。

(委員)

やらないってこともできるんですか。粘土はやめようとか、予算がないので、保護者とかも厳しいので粘土買えないと、やめて別なことやろうとかいうのもできるんですか。

(専門員長)

はい、説明が少なくすみません。粘土は子どもたち一人1個ずつ持っておりますので、自分の個の中で製作する分には、全然変更する必要はございません。ただ、大量に大きく粘土をたくさん使って、ダイナミックに何十人の中で製作するというのは、ちょっとそれは財政に困難かなと、保護者負担になるか学校負担になるか、ということでございます。粘土製作自体は、大変楽しい意義のある活動でございます。

(委員)

はい、分かりました。

(議長)

他にはいかがですか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

はい、とにかく図工って一番、子どもたちに楽しい教科だと思っておりますけども、その時その抽象的な作品を製作する題材を、特に教材研究が困難だよってというのは、やはりどういうことなのでしょう。実際に教える段階のイメージとしては。

(専門員長)

教科書を見て頂くとあれなんですけど、海外の作家の中で、ひじょうに音を付けたり抽象的なことなんですけど、それをやっぱり現場の教員が教えるとな



ると、いったいこの目的は何か、

(委員)

あ、そこですか。

(専門員長)

この教えた後に、この先をどう価値づけるとか、作った作品を子どもたちが、ああ作ってよかったと

(委員)

自分で？

(専門員長)

そうですね。なかなかそこまで到達するには難しい。よっぽど図工を鍛錬して研究していった方でも、なかなか難しいかなという部分もございます。ただ、子どもの発想的にババッと作っておしまいというのであれば、それでもよいんですが。

(委員)

それでも価値はあるのですか。

(専門員)

はい。

(議長)

他にはいかがでしょうか。はいどうぞ。

(委員)

子どもたちがいろんな体験をできるという観点からすると、その2者しかないのですけれども、どちらが適しているというふうに思われますでしょうか。

(専門員長)

どちらが適していると、私は立場でなかなか言えないのですが、すみません。それぞれいいところ、悪いところはある、ということでございますので。

(議長)

他にはありますか。

(議長)

はい、では質疑がないようでしたら、質疑をこれで終了といたします。専門員長ありがとうございました。

(専門員長)

ありがとうございました。失礼いたします。

(議長)

それでは続いて小学校家庭の専門員長を入室させてください。

(専門員長)

失礼いたします。

(議長)

では、説明お願いいたします。

(専門員長)

はい、よろしくをお願いいたします。皆さん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、家庭科専門員長を務めます、ふじみ野市立東台小学校、校長の秋元江利子でございます。これより、家庭科調査研究の結果を説明いたします。家庭科では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点は3点です。1点目は「問題解決的な学習の展開について」2点目は「実践的・体験的な活動の充実について」3点目を「その他」と設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告を申し上げます。はじめに「問題解決的な学習の展開について」ご説明いたします。大きな特色は3点でございます。1点目は全ての題材が3ステップで展開され、評価がこまめに行われていることです。ステップ①は「見つめよう」、ステップ②は「計画しよう・実践しよう」、ステップ③は「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」となっています。どの段階の学習であるかがわかるように小題材名のそばには大きく段階名が記載されております。これらを児童が確認し、繰り返しながら学ぶことで問題解決的な学習方法を身につけることが期待できます。また、小題材ごとに具体的な表現で「めあて」が表記されており、それに呼応する形で「ふり返ろう」という自己評価の視点が下欄に記載されています。2点目は豊富な「活動」が具体的な言葉で表現されていることです。「話し合おう」という活動は導入の段階で多く使われています。15個の題材のうち、10個の題材は話し合う活動からスタートしています。題材「夏をすずしくさわやかに」では、「夏の生活を快適にするために工夫していることを班で話し合ひましょう」と表記されています。話し合う視点が明確になっていることで、問題解決的な学習の展開が期待できます。また、全ての題材のまとめの段階で「深めよう」という活動が設定されております。題材「夏をすずしくさわやかに」では、「夏のおもてなし計画」という提案がなされています。「夏休みの暑い一日に自宅で快適に過ごすにはどのような工夫ができるか話し合ってみましょう」と投げ

かけがあります。家庭・地域での実践を促すまとめがしやすくなっております。3点目は「生活に変えるチャンス！」と設定し、家庭や地域での実践への働きかけが明確になっていることです。長期休業を前に、家庭や地域で、今までの学習を生かしてできる取組例を複数紹介しております。例えば、夏休みの前に「家族のまくらカバーを作ろう」「夏バテ乗り切るビタミンたっぷりそうめんを作ろう」等、興味のわく例示となっております。

次に、「実践的・体験的な活動の充実について」ご説明をいたします。大きな特色は基礎・基本の確実な習得のために題材の中で「いつも確かめよう」というコーナーが設定されていることです。困ったときには、いつでも開いて確認することができます。例えば、調理の手順、手縫いの手順、買い方の手順等がまとめられております。巻末ではこの「いつも確かめよう」が、実寸大の写真で掲載されております。包丁の使い方やいろいろな切り方、針と布の持ち方やミシンの扱いのポイント等が掲載されております。実寸大の写真を活用しておりますので、写真のそばに手を置いて練習できるような工夫がなされております。最後に「その他」気付いたことをご報告いたします。サイズがA4版で、資料が豊富に入っております。「食育」「環境教育」「キャリア教育」等の今日的課題についての内容が多数掲載されています。「食育」では特に和食の特徴を取り上げています。「キャリア教育」では「プロに聞く」というコラムを掲載し家庭科に関連する職業の方11人へのインタビューを記事として掲載しています。情報量が多い分、印象に残る部分が分散しないよう配慮していく必要があります。

次に、「開隆堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。はじめに「問題解決的な学習の展開について」ご説明いたします。大きな特色は3点です。1点目は全ての題材が3つの小題材で構成されており、家庭科の学習ガイダンスをもとに展開されていることです。小題材①は「見つける・気づく」小題材②は「わかる・できる」小題材③は「生かす・深める」という段階になっております。巻頭の学習のガイダンスにおいては、問題解決的な学習は具体的にどのように行うのか、写真を多数掲載し説明がなされております。例えば、小題材②では、調理や裁縫という実習活動以外にも「調べる」「実験する」「観察する」「家族と考える」等の解決方法が記載されているので児童だけでなく指導者の意識を高めることにも役立てることが出来ます。学習のまとめ「振り返ろう」では、児童が導入のページに戻って、自己評価チェックができるようになっております。2点目は、児童自ら課題に気付きやすい写真やイラストが掲載されていることです。例えば、題材「クッキング はじめの一步」では、これからほうれんそうをゆでようとしている児童が、吹き出しで「もうなべにいれていいかな」とたずねる写真になっています。野菜をなべに入れるタイミングはいつなのか、考えるきっかけとなります。また、題材「こんだてを工夫して」では、宇都宮市の小学校でのバイキング給食で、おかずを選んでいる様子が写真として掲載されております。主食とおかず等を選ぶにあたっての視点について、意識を高めることができます。3点目は豊富な「活動」が児童が主体的に取り組みやすい内容になっていることです。題材「すずしく快適に過ごす着方と手入れ」では、目があらい布と目が細かい布を用意し筒を利用し、息を吹きかけて空気の通りやすさを実験します。題材「食べて元気に」では、湯とだしじるのそれぞれにみそを加え飲み比べるという実験が掲載されております。顆粒だ

しの使用が日常的に多い中、実際にだしじるを飲むことで、だしをとる意味を理解することができます。どれも写真と共に掲載され準備が簡単であることから児童に理解されやすく指導者にとっても取り組みやすい活動となっています。次に、「実践的・体験的な活動の充実について」ご説明をいたします。大きな特徴は児童の実態に即した配慮がなされていることです。初めての調理実習においては、ピーラーや卵切り器などの器具の紹介があります。包丁だけでなく必要に応じて活用できることが理解できます。また、後片付けが大きく取り上げられており、意識を高めることができます。初めてのミシンの活用では「まち針の止め方」が段階をおった写真で掲載されています。また、「しつけの仕方」では、どの部分を縫うのかが大きく掲載されており、分かりやすくなっています。最後に「その他」気付いたことをご報告いたします。「一口メモ」として児童が理解しづらい生活に関わる用語が下欄に掲載され、すぐに確認できるようになっています。例えば、「ひたひたに水を入れる」という表現については「材料が水から少し出るくらいの水加減を表す料理の用語」という説明がなされています。今日的課題についての内容も多数掲載されています。学期末に学習する「チャレンジコーナー」では、日本の伝統文化を多数紹介しています。「キャリア教育」という視点ではオリンピック選手の衣装デザイナーや、元サッカー日本代表選手のコメントが掲載され、児童の関心を高めることができます。また、巻末では「中学校との接続」や「生活の中でのプログラミング」についても掲載されています。

説明は以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございました。

ではただ今の説明に対する質疑をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(専門員長)

実際の家庭科の授業では、教科書に載っている内容に沿って進めて行かれるのか、その中の取舍選択をしてできることもあるのか、どちらなのでしょう。

(専門員長)

はい、今回の改訂で一部指定されているものがございます。それは、ほうれん草とじゃがいもを茹でるということと、あと裁縫につきましては袋を作るということが指定されておりますが、それ以外のことにつきましては、教科書の中にページというものがございますので、その中を選択してまいります。

(議長)  
他にはいかがですか。

(議長)  
はい、どうぞ。

(委員)  
はい家庭科は、料理教室ではないんですけども、実際他の科目では、QRコードを使って動画だったりあるんですが、そういったものを使えばより少ない時間でも、効率的にできると思うのですが実際に教科書の中にあるのでしょうか。

(専門員長)  
両者ともございます。動画でございます。

(委員)  
QRコードもありますか。

(専門員長)  
QRコードもあります。

(議長)  
他にはいかがですか。

(議長)  
よろしいですか。では質疑がなければ以上で終了といたします。ありがとうございました。

(専門員長)  
ありがとうございました。

(議長)  
それでは小学校保健の専門員長を入室させてください。

(専門員長)  
失礼します。

(議長)  
では説明お願いいたします。

(専門員長)  
はい。それでは皆さんこんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、体育科専門員長を務めます坂戸市立桜小学校校長の谷口義明でございます。これより、体育科調査研究の結果を説明させていただきます。体育科では、5者の保健の教科書について調査研究を行いました。調査研究の観点を4つ設定いたしました。まずはじめに、児童の交通事故への危惧から、交通安全に対する意識を高める内容となっているか、という項目を設定させていただきました。各学校で学級活動等、教育活動全体を通じて、交通安全指導を行ってはおりますが、教科として交通安全について学習する中では、この保健が重要な役割を果たすことから、こちらの点につきまして着目いたしました。また、保健学習における教科書の役割を考えますと、資料の充実と、ワークシートの役割も大切なことであると考え、2つ目の観点、適切かつ効果的な資料が掲載されているかを設定いたしました。年間を通じて、数時間しかない保健学習において、学習を深められるような資料や、児童が主体的に学習に取り組むことが可能となる資料の掲載が必要であると考えられるからです。次に、新学習指導要領示されました深い学びを実現するため、児童の思考を深める内容となっているか、という観点を設定しました。教師の指導過程、指導方法等により思考を深める授業は可能ですが、教科書の掲載内容により、幅が広がるものと思われたからです。さらに、新学習指導要領では、何をどのように学ぶか等、学びの質の向上が求められていることもかんがみ、学習の見通しが分かりやすくなっているかという観点を設定いたしました。児童自身が学習の見通しを知ることで、主体的な学習も期待できると考えたからです。これらの4観点を設定し、研究を進めた結果がお手元の報告書となっております。

それでは、「東京書籍」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。観点①、交通安全意識を高める内容につきましては、ページ数4ページと、5者の中で最も多く紙面を割いており、児童をハッとさせるような事故にあう瞬間の写真からの導入となっております。また、車の制動距離について、絵入りで説明しているのは当者のみとなっております。観点②、適切かつ効果的な資料についてご説明いたします。こちらの教科書は、そもそも全体で128ページと、5者の中で最もページ数が多く、資料のページも28ページ、表・グラフ数も豊富です。資料の中の児童が記入できる欄もゆったりととっており、ワークシートとしての機能も備わっております。実生活に生かせる内容の資料として、AEDの使い方が掲載されております。また、発展資料として、コンピューターやスマートフォンと健康についての掲載もあります。さらに、巻末資料としまして、生活安全に関わる資料がついております。観点③、思考を深める内容につきましては、学習のステップ3として、深める・伝えるとの指導過程を設定しており、児童の思考を深める内容を意識して掲載しています。また、新学習指導要領に例示された文言を、意図的に太字にすることで、重要な点をふまえ思考につなげられるような工夫が見られます。さらにけがの手当てを、ワークシート形式で実習扱いとして掲載しており、これは学習指導要領解説に、思考力・判断力等を育成していくこととして、例示されている内容であります。

次に観点④、学習の見通しの分かりやすさについて、ご説明いたします。全ての小単元構成が4ページとなっており、児童が課題に気付き、調べ解決し、さらに深めまとめ生かすという構成になっており、同じ流れで徹底しているため、学習の見通しが立てやすくなっており、また各単元の扉には、単元の目標と学ぶ内容が進め方という形で示されており、学習も見通しが立てやすいように工夫されています。単元の扉にこの見通しが示されているのは、5者のうちのこちら会社のみとなっており、その他の特徴といたしましては、カラーユニバーサルデザインに配慮し、見やすく読み間違いにくいよう工夫されています。

次に、「大日本図書」についてご説明いたします。観点①、交通安全意識を高める内容につきましては、取り扱いが2ページとなっており、資料も含めて少々物足りなさも感じられます。観点②、適切かつ効果的な資料の掲載につきましては、資料の中の児童が記入できる欄が狭く、活用するとすると別にプリントを作成する必要があるものと思われる。また、病気の予防の単元で扱われている病原菌の写真は、白黒で少し分かりづらいかと思われる。観点③、思考を深める内容につきましては、毎時間の内容に、「活用して深めよう」のコーナーを設置しており、思考力を深める工夫がなされています。次に観点④、学習の見通しの分かりやすさについて、ご説明いたします。全ての小単元の導入に、人物探しのゲームを取り入れており、単元で学習する内容に関連した人物を探することで、児童の興味を引く内容となっています。また1時間の学習内容が見開きで示され、活用しやすくなっており、ただ、見開きで1時間の構成されていますので、全部見えてしまうという弊害もあります。その他としましては、本教科書もカラーユニバーサルデザインに配慮されたものとなっています。

次に、「文教社」についてご説明いたします。観点①、交通安全意識を高める内容につきましては、3ページの紙面を割いており、ある程度児童の交通安全意識を高めることができる内容であると考えられます。観点②、適切かつ効果的な資料の掲載につきましては、水の事故のについての資料を多く取り入れているところが特徴です。病原菌の写真は白黒で掲載されています。観点③、思考を深める内容につきましては、新しい自分にレベルアップという表現を使用して、あなたならどうするというコーナーにより、児童の思考を深める内容を取り入れております。また、考えてみようというコーナーを単元により設定し、児童に考えさせるような配慮がなされています。なお、各単元のまとめは、児童個人個人が、「〇〇宣言」と題して、生活に生かす決意を記入できるような構成となっています。最後に観点④、学習の見通しの分かりやすさについて、ご説明いたします。学習活動という名称を使い、学習過程を示してはいますが、単元や小単元ごとに一定した流れを設定をしておりませんので、使い勝手という点では心配もされます。

次に、「光文書院」についてご説明いたします。観点①、交通安全意識を高める内容につきましては、ページ数が2ページとなっておりますが、発展資料等も含めた2ページを合わせると4ページで、こちらも5者の中で最も多く紙面を割いており、歩きスマホや内輪差等の資料が特徴的です。また、自転車の安全な乗り方についての資料を掲載し、児童の視点で安全について考えられるように配慮されています。観点②、適切かつ効果的な資料の掲載につきましては、ユニバーサルデザインの視点から、資料の配色を工夫し

見やすくしていることが特徴で、特に専門的なところに見てもらっているとの説明が記載されております。3・4年生の健康な生活の学習では、スマートフォンやタブレットの使い方と生活のリズムの関係について、発展資料として掲載しております。また、関連するQRコードにつきましては、どの教科書にも掲載はあるのですが、こちらの教科書のコードは、ダイレクトに調べたいことにつながるようになっております。そして、ASUKAモデルの扱いなど発展的なコーナーが多いことが特徴となっており、数としては、他者の倍近い資料が掲載されていることが特徴です。観点③、思考を深める内容につきましては、ところどころ「考えよう」というコーナーを設定していることや、生かそう・伝えようという視点から思考を深めるような工夫がなされております。最後に観点④、学習の見通しの分かりやすさについて、ご説明いたします。こちらの特徴は各単元の扉のページが、4コマ漫画となっており、そこで学習内容を確認できるよう工夫されています。また、学習過程は表現が単元ごとに多少異なるものの、流れ自体は一定したものになっておりますので、経験の少ない教員でも使いやすいのではないかと思います。

最後に、「学研教育みらい」についてご説明いたします。観点①、交通安全意識を高める内容につきましては、2ページの紙面の中で、多少窮屈感があり、資料としては物足りなさを感じられます。また、一般的な事象に終始しているので、自分たちがどうすればよいかという主体的な視点が欠けていると思われれます。観点②、適切かつ効果的な資料の掲載につきましては、心の悩みを相談することに関連した資料の掲載に力を入れ地域の相談先を調べる工夫がなされています。また、3・4年生の巻末資料「安全な生活のために」により、高学年の保健の学習につなげる工夫がなされております。観点③、思考を深める内容につきましては、「考える・調べる」コーナーで「考える」視点を設定しているところが見られるとともに、「まとめる・深める」コーナーにより、学んだことを生かし、生活に生かすことについて考える内容を設定しております。最後に観点④、学習の見通しの分かりやすさについて、ご説明いたします。見開きで「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」学習過程を統一しておりますので、学習の流れが分かりやすくなっております。

説明は以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問等お受けしたいと思っております。いかがでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)



コンピューターやスマートフォン等の健康についての掲載ということなんですけれども、2つの教科書会社さんが扱っているのですが、他は入ってないのでしょうか。いや、そういうんじゃなく全部入ってるよっていう。

(専門員長)

3・4年生の教科書と5・6年生の教科書であるんですけども、3・4年生の方につきましては、東京書籍と光文書院と。それから5・6年生の方には、一部学研みらいの方にも載っておりました。

(委員)

はい。

(議長)

他にはいかがですか。

(議長)

質問はないですか。なければ以上で質疑を終了といたします。ありがとうございました。

(専門員長)

ありがとうございました。

(議長)

それでは、小学校英語の専門員長を入室させてください。

(専門員長)

失礼します。

(議長)

説明をお願いします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、外国語科専門員長を務めます、ふじみ野市立駒西小学校、教頭の清水でございます。これより、外国語科調査研究の結果を説明いたします。外国語科では7者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「1 活動場面の充実について」「2 資料の使いやすさについて」「3 授業を通しての自己評価について」「4 その他」の4つを設定しました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し

上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。各学年、一年間が8つのUnitに分かれ、各Unitは、「音に慣れる」「会話に慣れる」「コミュニケーションを楽しむ」「世界を広げる」という4つのステップで構成されています。それぞれに目標が提示されていること、各学習活動にも「聞く」「読む」「話す」「書く」のどの観点が重要かマークで示されていることから、児童が目標を意識して学習することができます。歌やチャンツ、聞いたり書いたりする活動、ペアやグループで話す活動、全体で発表する活動が計画的に配置されています。1時間の学習活動が豊富で、分かれ目がはっきりしていることから、教師も授業がしやすいと言えます。「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。各活動にはQRコードの音声や映像が充実しており、英語に慣れ親しむ工夫がされています。各Unitの最後にある「Over The Horizon」では、見開きのページで外国の文化を学べるコーナーがあり、写真だけでなく、インタビュー等の映像を見ながら外国の様子や文化に触れることができます。別冊の「Picture Dictionary」に単語や基本表現がまとめられています。学習する単語がジャンル別にまとめられ、Unitごとに基本表現がまとめられているなど、児童も教師も活用しやすい工夫がされています。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。年3回、学期毎の「Check Your Steps」では、授業で作成した成果物等を活用して、テーマに沿ったスピーチを作り、発表します。これまでの自分の学びを振り返り、伝える力を確かめる工夫がされています。毎時間の振り返りは、ふりかえりカードやワークシートがDVDに準備されており、必要に応じて活用することができます。

それでは、「開隆堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。5年生は9の「Lesson」、6年生は11の「Lesson」に分かれており、それぞれ年二回、これまでの学習をもとに発表する等、まとめの「Project」があります。巻頭に「CAN-DO」マップがあり、一年間でできるようになることが示され、見通しが持てるよう工夫されています。「聞く・読む・話す・書く」場面がはっきり分かれ、様々な活動を通して新しい語彙や表現を学ぶことができます。各場面でペアや・グループになったりして、他者と関わりながら、段階的に学ぶことができるようアクティビティが計画的に配置されています。

「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。これまでに使用してきた教材にある「Let's Try」の流れや構成に似ており、親しみを持ちながら学習に取り組むことができます。紙面に書き込みながら学習でき、巻末に各Lessonに沿った書く活動が用意されているので、教科書1冊で授業を展開することができます。1時間の区切れが分かりにくいので、授業計画の工夫は必要であると考えます。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。各Lessonの最後で、育成すべき資質・能力に基づいた3つの観点を振り返りを行うことができます。また、巻頭の「CAN-DO」マップでは、できるようになったことを4段階で自己評価することができます。それでは、「学校図書」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。5・6年生ともに10のLessonがあり、各Lessonを3つのステップに分け、段階的に学べる工夫をしています。学習活動が充実しており、基本表現を繰り返し、インプットしながら無理なく学習できるようになっています。「聞く、繰り返して言

う、相手とのやりとり、発表、読む・書く」のステップを踏んだ学習計画が立てられています。「Small Talk」の内容が具体的に示されており、活動に取り組みやすいです。各「Lesson」の最後にある「Shaggy's Story」という物語は、一年間を通して物語書式となっており、学んだ表現の復習や文字に対する気付きができるよう工夫されています。「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。各Stepの活動に沿って、音声を聞いたり紙面上に書き込んだりして授業を進めることができ、アクティビティが豊富なので、教師がゲームやワークシートなどを準備する必要がありません。巻末に歌の歌詞が掲載されており、聴いたり歌ったりするなど、授業の導入で活用することができます。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。各Lessonの最後に「Check Time」があり、育成すべき資質・能力に関連した4観点について、3段階で振り返りを行うことができます。自分の学びを自由に記述・表現する欄もあります。

それでは、「三省堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。一年間を3つの大単元で区切り、学期ごとに「Hop・Step・Jump」という段階的に学べる構成となっています。学習の見通しを持ち、表現を学んだり練習したりしてコミュニケーションを図り、実際の場面で表現するという流れの中に「聞く・話す・読む」活動が計画的に配置されています。大単元最後の

「Presentation」では、「聞く・話す」の活動が具体的に示されており、これまで学習した基本表現を使いながらインタビューをする活動等を通して、児童が主体的・協働的に学ぶことができる工夫されています。

「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。大単元の「Step」にある「Lesson」は2～3つずつに分かれ、「聞く・話す・読む・書く」活動がマークで示されており、目的意識を持って活動に取り組むことができます。紙面上に書き込みながら活動できますが、単語や文を書く場面が少なく、教師が別にワークシートを準備する等、英語を書くための工夫が必要です。巻末には、ジャンル別に学習した単語や基本表現がまとめられており、授業や自主的な活動において、児童の学びをサポートする工夫がされています。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。巻末に自己の学びの成果を確認できる「CAN-DO」リストと、各学期の最後に「まとめとふりかえり」があります。教科書には毎時間の振り返りがないので、別紙の振り返りシートを活用する必要があります。

それでは、「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。5・6年生ともに一年間が9つの「Lesson」に分けられており、各レッスンが4つのステップで段階的に学ぶことができるよう工夫されています。1時間の授業は、映像を見て内容をとらえる、チャンツ等で口慣らしをする、聞く、聞いて考える、友だちとやり取りをする、読む・書く活動の中から段階に応じて配置され、順序を踏んで少しずつ自己を表現する活動へとつなげられています。各活動で「友達が言ったことに対して、何と言っているかな。音声を聞いて考えてみよう。」など、具体的な目標が提示されているので、何をすることが分かりやすいです。聞く活動が豊富で、英語を優しく無理なくインプットし、段階的に言語のスキルを身に付けられるよう工夫されています。

「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。見開き2ページが1

時間の授業で構成されており、「今日、何をするのか。」が分かりやすいです。絵カードだけでなく、アクティビティで使えるワークシートの付録や別冊のワークブックなど、授業をサポートしてくれる教材が豊富に準備されており、児童の実態に応じて様々な授業展開が考えられます。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。育成すべき資質・能力に基づいた観点で振り返りを行うことができます。付属のワークシートにも振り返りの欄があり、成果物として教師が評価できます。

それでは、「光村図書」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。5・6年生ともに9つのUnitで組み立てられており、各Unitが「Hop、Step 1、Step 2、Jump」の4段階のスマールステップで構成されています。「Hop」の場面では、「名前や好きなものを言って、自己紹介をすることができる」等、Unit全体の目標と、各StepやJumpの活動が示されており、児童が見通しを持って学習できる工夫がされています。一時間の授業は、聞く活動から始まり、チャンツで口を慣らす、話す・書く活動を段階に応じて計画的に配置されており、インプットを十分に行ってからアウトプットにつながるよう構成されています。学習活動では、ペアやグループで活動することを示すことで、コミュニケーションを図るよう工夫しています。「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。見開き2ページで1時間の授業が構成されており、「今日、何をするのか。」が分かりやすいです。QRコードで音声や映像を視聴することができ、目標に向かって内容を理解する手助けとなっています。スマールトーク等、相手とのやり取りが必要な場面では、デジタル教科書の映像資料を活用することで、視覚的に理解させることができます。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。各Unitの最後に、「CAN-DO」があり、「自分や他の人ができないことを紹介することができた」等、知識・技能を自己評価する欄があります。「考え・深める」評価もありますが、自分の考えを引き出すためには教師の工夫が必要だと思われるます。

それでは、「啓林館」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。「1 活動場面の充実」についてご説明いたします。5・6年生ともに8つの「Unit」で構成されており、年間3回「REVIEW」として各学期の最後に振り返りの活動があります。各Unitが3つのパートに分かれ、「聞く・話す」活動を中心に、「読む・書く」活動がスマールステップで配置され、無理なく英語力を身に付ける工夫がされています。「Listen and Play」聞く活動、「Jingle」「Chant」声に出す活動、「Listen and Say」聞いて答える活動といったように1時間の授業の流れがパターン化されており、見通しを持って学習することができます。パート2・3では、学んだ語句や表現を使ってペアやグループで話したり、発表したりする「Activity」の活動があります。「2 資料の使いやすさ」についてご説明いたします。自分の考えを紙面上に書き込みながら、アクティビティを進めることができるので、分かりやすく、振り返りも容易にすることができます。教科書に準拠した書く活動のワークシートがあり、アルファベットを書く、単語を書く、英文を書くと段階的に学ぶ工夫がされており、効果的に指導することができます。「3 授業を通しての自己評価」についてご説明いたします。毎回の授業の終わりに、目標に対してどれだけ達成できたかを振り返り、色を

塗って、達成度をバロメーターで表す欄がある。学習を繰り返し、バロメーターを塗り足していくことで、児童が自分の成長を実感できる工夫がされています。各Unitの最後にも育成すべき資質・能力に基づいた観点で振り返る欄と、自分の考えを記入する欄があり、児童が主体的に学習に取り組む態度を見取ることができます。

以上をもちまして、外国語科の調査研究報告を終了いたします。

(議長)

ありがとうございました。

はい、次に入る前に、私の方から1点のお諮りをいたしますので、その他についてですけれども、皆さんの資料にもありますが、教科書の内容と直接関係がある事項ではございませんので、今、説明もございませんでしたけれども、今日の質疑等する内容とは別にしたいというふうに考えますがよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、皆さんの了解を得られたということで、観点の1～3までの内容、今、説明のあった内容に対する質疑をお受けいたします。

(議長)

お願いします。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

はい、すみません。UnitとLessonというのがあるのですが、教科書の会社ごとにUnitとあれと使い分けてるんですが、その違いは何ですか。

(専門員長)

はい、答えいたします。通常我々の認識ですと、Unitというのは一つの塊、単元というふうに捉えるのではないのかなと思われまして、Lessonという、こう1つ1つの授業というふうな認識でとらえがちなんですけど、各会社によっては、言ってる意味は結局同じになっていて、UnitとLesson、意味としては同じような形で使っております。例えば東京書籍では、1年間で8つのUnitに分かれています。その1学期に例えば1～3のUnit、2学期が4～6のUnit、3学期が7と8のUnitというふうに、塊として捉えてるんですけど、開隆堂さんでは、9のLessonに分かれていまして、東京書籍さんと同じような形ですけど、3つの塊に分かれておりまして、1～4のLessonが1学期、5～7のLessonが2学期、3学期が8と9というような形で、意味合い的には同じような形で使われていますという認識でおります。以上です。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

1番最初の東京書籍さんかな、「Picture Dictionary」というふうに別冊ということで使い勝手がいいということなんですが、他の教科書会社さんも、同じようなものがあるのかないんですか。

(専門員長)

はい、各会社工夫されてはいるんですけど、別冊として付いておりましたのは東京書籍さんのみでございます。以上です。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

全体的に音声を聞く授業が主体かと思うんですが、実際授業では、何を使って聞くのでしょうか。

(専門員長)

はい。デジタル機器だったりだとか、CDラジカセであったりだとか、そういったものを活用して、

(委員)

CDが付いてるってことですか。

(専門員長)

そうですね。はい。あとは、これは全社共通しているんですけど、今回、QRコードが各会社、全社についております。ですからそれを、これは自主的な学習等で使われるのかなと思うんですけど、各家庭であったりだとか、または学校にあるデジタル機器を活用して、そこで読み取って映し出すとか、そういった活用方法が考えられます。

(委員)

教科書によっては、出版社によっては、そのページごとにQRコードがあるのと、まとまったものがどこかにその差はあると思うんですが、その辺についてはどうなんですか。

(専門員長)

そうですね。例えばですが、学校図書さんは143ページ中26か所にQRコードがついています。三省堂さんは、128ページ中67か所に設置されています。数は違うんですけど内容としては、それぞれ、学校図書さんは

数は少ないけど、Lessonごとに2～3か所ついてることがあって、使い勝手がいいなど、その辺のところにつきましては、会社ごとによって個性があるのかなというふうに思っています。

(議長)

他にはどうでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

はい、よろしくお願いします。

(委員)

現行の教材、「We Can」ですか、こちらと内容が近いものはどれでしょうか。また、その内容が近いということに関しまして、どれほどのadvantageがあるのか、といことを教えていただきたいと思います。

(専門員長)

はい、お答えいたします。専門員、また私の中から出たのは、開隆堂さんが一番近いのではないかと、これまでの流れ、学習活動や授業の流れが似ているのではないかと意見が出されました。Advantageがあるかということ、これも使う側の教師によって異なってくるかもしれませんが、これがいいという方もいるかもしれませんが、今回は各者、かなり個性を出してきておりますので、冊子によってはこちらの教科書の方がいいという方も、専門員の中でも正直言うと意見は分かれました。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

他にはいかがですか。

(議長)

ございませんか。では、質疑がないようですので、これで質疑を終了いたします。お疲れ様でした。

(専門員長)

ありがとうございました。失礼いたします。

(議長)

それでは小学校道徳の専門員長を入室させてください。

(議長)

では説明をお願いします。

(専門員長)

よろしく申し上げます。

(専門員長)

私は、「特別の教科 道徳」の専門員長を務めます、鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校、校長の内野でございます。これより、調査研究の結果をご報告いたします。「特別の教科 道徳」では8者について、調査研究を行いました。調査研究の観点は、1点目として、喫緊の課題であるいじめ問題等の事前防止との関連を重視して、「いじめ問題、命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」を設定しました。2点目として、道徳的な課題を一人一人の児童が、自分自身の問題と捉え、向き合う学習とすることを重視して、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」を設定いたしました。3点目として「現代的な課題である情報モラルを中心とした その他」を追求いたしました。この3つの観点の調査研究の結果につきまして、お手元の調査資料に沿ってご報告いたします。

はじめは、「東京書籍」についてご報告いたします。まず「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。

「いじめのない世界へ」として、「とびらページ」「直接的教材」「間接的教材」の3つの要素からなるユニット式の教材が全学年に配置されています。

しかし、このユニット「いじめのない世界へ」は、学年ごと1回の構成なので、その点を補う指導者の工夫が求められると思われます。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。低学年では、読み物とは異なった形式のゲーム的要素のある教材などを掲載し、様々な活動の中でアクティブに議論させることを促す工夫がされています。また、全学年に「話し合いの約束」の欄が設けてあり、話し合う際のポイントを確認できます。これにより他者とのコミュニケーションを通して、道徳性を育むための工夫がされています。最後に「その他」についてです。情報モラルを扱った教材が全学年にあり、適時学習することができるようになっています。インターネットに関しては4年生から6年生までの3学年で異なる視点から扱われています。

次は、「学校図書」についてご報告いたします。はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。いじめをしない、許さない心を育むために「ともにいきる」のマークのある教材が、学級経営の視点を取り入れ、学級づくりの理論に基づいて配置されています。また、「ともにいきる」の教材では、身近な題材や名作絵本、人物の伝記や人権に関する教材などを多様に掲載し、命の大切さを実感し、いじめに向き合う心を高めるように工夫されています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。学習ノート「まなび」には、話し合いや役割演技などの学習の取り組み方が記載されています。この「まなび」には、発問例が記載されているので、それにとらわれずに、よりよい学習を目指したい指導者には工夫が求められると思われます。最後に「その他」についてです。漫画形式の情報モラル教材などを通して、日常生活とつなげて課題をみつけるヒントがちりばめられています。

次は、「教育出版」についてご報告いたします。



はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。いじめ問題については、直接的教材だけでなく、集団や社会との関わりを考える教材でも間接的に扱われています。また、いじめ問題や差別問題について考える教材の配置を工夫し、6年間を通じて、スパイラルに学習できるようになっています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。教材末の「考えよう」「深めよう」「つなげよう」には話し合ったり自分の考えをまとめたりする活動が設けられており、言語活動が充実するよう工夫されています。最後に「その他」についてです。児童の発達段階に合わせて電話や学級新聞、メールなどを題材にした情報モラル教材が全学年に掲載されています。道徳教材の各学年の内容項目の配当に特色があるため、6年間を見通してのバランスに配慮する必要がありますと思われる。

次は、「光村図書」についてご報告いたします。はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。全学年とも、授業開き後の4～8月にかけて、内容項目B主として人との関わりに関することの視点を中心に教材が配置されています。また、「いじめ」を考えるユニット、「よびかけ、教材、コラムからなるまとめり」ですけれども、が集められています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。定番とされる教材の一部を直したり、教材の一部を漫画形式にしたりして、学年に応じてより考えやすく、話し合いやすくなるように工夫されています。最後に「その他」についてです。情報モラルのページは全学年内容項目とリンクされており、3年生からはインターネットと関連したコラムがセットになっています。全学年とも、教材文の文字がやや小さく、分量も多くなっています。学習するには児童の読解力が必要となるため、指導者の工夫が求められると思われる。

次は、「日本文教出版」についてご報告いたします。はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。いじめ防止ユニットとして、直接的教材、間接的教材、いじめ防止に関するコラムからなる教材があります。これが年間3回設定されており、各学期で取り組めるようになっています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。教材の末尾にも発問が記載されており、この発問が「道徳ノート」と連動しているため、道徳的価値について考えやすくなっています。しかし、道徳ノートでは自由に書き込める欄もごさいますが、書き込む内容が指定されており、発問が特定されやすくなってしまったため、指導者の工夫が求められると思われる。最後に「その他」についてです。全学年に情報モラルについて、例えば「正直・誠実」などの内容項目として、学習できるような教材があります。取り上げている割合も多くなっています。

次は、「光文書院」についてご報告いたします。はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。「自分のいのち」「みんなのいのち」として「生命の尊重」について重点的に学ぶ構成になっており、6年間を通して取り組めるように設定されています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。40ある教材を使って、児童の実態に合わせて有効的に活用することができるようになっています。教材文の展開部分に、吹き出しの発問が記載

されています。このため、指導者が発問を工夫したいときに、多様な考えが出にくくなってしまうことが考えられるので、留意が必要であると思われます。最後に「その他」についてです。情報モラルのページでは、全学年、児童にとって日常に近い場面を想定した内容になっているなど、発達の段階に応じた教材となっています。

次は、「学研教育」についてご報告いたします。はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。いのちの教育を最重点とし、複数教材を組み合わせにより深く、より広く学習できるように構成されています。いじめ防止につながる教材が様々な時期に取り組むことができる配置となっています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。「つなげよう、ひろげよう、深めよう、やってみよう」の4種類の「学び方のページ」を通して、自ら考え、他者と意見を交わし、学習を進めることができるように工夫されています。最後に「その他」についてです。現代的課題について取り扱う教材も多く入っており、情報モラルに関しては、発達の段階や特性等を考慮し、適正な活動を行うためのもとになる考えや態度を養うことが目的にされています。児童の問題意識を大切にするため、教材文には主題名が記載されていないので、教材のねらいがずれないように指導者の工夫が求められると思われます。

次に、「廣済堂あかつき」についてご報告いたします。はじめに「いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について」です。低・中学年に日常生活をふり返るような教材が多く、高学年には心の揺れや人間関係の理解等の課題を扱った教材があり、道徳的価値に深く迫ることができよう工夫されています。次に、「考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について」です。別冊の道徳ノートを使い、書くことで自分の考えや成長を見取ることができるように工夫されています。教材名の横に学びのヒントが記されており、教材のねらいにそった学習を進めることができるようになっています。最後に「その他」についてです。情報モラルに関する教材が全学年に配置されており、読み物教材だけでなく、特集ページでも具体的な対処方法が挙げられています。教科書の本冊とノートである別冊は内容が直接は連動していないので、使用に際して指導者の工夫が求められると思われます。

ご報告は以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明につきまして、質疑をお受けしたいと思いを。はい、お願いします。

(委員)

要するにこの教科書ですか、別冊があるのはいくつかありますか。

(専門員長)

別冊があるのは、8者中3者でございます。

(委員)

具体的には。

(専門員長)

はい、学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつきの3者でございます。

(委員)

道徳ノートとかそういうものは、特にはないの。

(専門員長)

普段の授業の中で。

(委員)

はい。

(専門員長)

基本的には教師が工夫することになりますが、おそらく多くの学校では、ワークシートを用意したり、プリントを用意したりすることで、このような付属ものがない場合は補っている、授業を進めているということはあると思います。

(委員)

ありがとうございます。

(委員)

じゃ、よろしいですか。

(議長)

どうぞ。

(委員)

学研さんですか、その中でその他の中に、現代的課題について取り扱う教材も多く入っており、情報モラルに関しては、発達の段階や特性等を考慮して、適正な活動を行うためのものとなる考えや態度を養うことを目的にしているということで、他の教科書会社さんも入ってるのですが、扱いのノーハウというのは。

(専門員長)

各者ともこの情報モラルに関しては、今回の改訂の中で力を入れているというふうに捉えました。直接的に、コラム的に直接的な子どもたちがかかわり場面を、説明している教材もございましたし、学研図書さんのように、内容項目の中で触れてるものもございました。特にその取扱いに若干、教科書会社によって差異があったかなと捉えております。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

他にいかがでしょうか。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

学校図書の、2行目に学級づくりの理論というのがあるんですけども、これは大方の先生に共通に理解されてるそういう理論があるという理解でよろしいのでしょうか。

(専門員長)

理論っていう言葉をここで使ってしまったんですけども、一般的イメージとして、例えば4月に学級をクラス替えがあつて、学級を開いて子どもたちの人間関係を作っていく、最初は緊張しているんですけども、6月ぐらいになると若干緊張感がいい意味でも緩んでくる。ある意味集団にも出てくるといふ流れがございます。また、例えば秋になりますと、運動会や合唱祭とか学年によっても違うんですけども、その行事を終えた後に、また気が緩むといふか若干ゆるみが見られる、そのような大まかなイメージは、多くの経験の豊富な教職員は持っていると思います。それに合致するような教材の配置をしてくださってるなど考えました。

(議長)

他にはいかがでしょうか。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

教科書自体がちょっと重いんですが、最近教科書版を見て、子どもの腰痛とか肩こりとかなるべく、道徳の教科書は大きく感じるのですが、平均のグラム数はどのくらいなんですか。

(専門員長)

すみません。平均のグラム数は今手元にはございません。

(委員)

だいたいどのくらいなんですか。他の教科書より持った感じがちょっと重い感じがするんですが。

(専門員長)

特に子どもたちの意欲を引き出すために、大判になっているというのが、今回大きな特徴だったと思います。あともちろん別冊が付いているものにつ

	<p>いては、そこ一体として教科書と捉えられていますので、そのところは、特に重くなっているという傾向はございます。具体的な数値は、今手元にございません。後程、確認してご報告させて頂ければと思います。</p> <p>(議長) 他にはどうでしょうか。</p> <p>(議長) ありませんか。それでは質疑がないようでしたら、これで質疑を終了したいと思います。ありがとうございました。</p> <p>(議長) 以上で、全ての種目の報告が終わりました。事務局やその他の協議事項はありますか。</p> <p>(事務局) はい、特にありません。</p> <p>(議長) はい、では以上をもちまして、議長の任を解かせていただきます。長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。</p>
3 諸連絡	<p>(司会) それでは続きまして、諸連絡に移ります。事務局よりお願いします。</p> <p>(事務局) 連絡をさせていただきます。第3回採択協議会につきましては、7月31日(水)午後1時から、三芳町役場501会議室で実施を予定しております。よろしくお願いいたします。</p>
4 閉会	<p>(司会) それでは、第10採択地区教科用図書採択協議会 第2回採択協議会を閉会します。皆様、長時間の会議、本当にありがとうございました。</p>